

**IBM Planning Analytics**  
最終更新日: 2015 年 12 月 2 日

## ご利用の手引き

**IBM**

**注記**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、51 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

この資料は IBM Planning Analytics を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** IBM Planning Analytics  
Last updated: 2015-12-02  
Getting Started Guide

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2007, 2015.

# 目次

はじめに	v
<b>第 1 章 IBM Planning Analytics のご利用の手引</b>	<b>1</b>
IBM Planning Analytics の概要	1
IBM Planning Analytics の非実稼働環境と実稼働環境	1
IBM Planning Analytics システム	2
IBM Planning Analytics のアプリケーションおよびコンポーネント	4
IBM Planning Analytics 共有フォルダー	6
IBM Planning Analytics のアカウントおよびシステム情報	7
リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続	10
IBM Planning Analytics と Windows Server 2012	11
サービスおよび共有フォルダーへのアクセスの制御	13
IBM Planning Analytics の言語設定	15
IBM Planning Analytics によるドキュメントの設定およびドキュメントへのアクセス	16
<b>第 2 章 IBM Planning Analytics での Cognos TM1 コンポーネントの実行</b>	<b>17</b>
IBM Planning Analytics と Planning Analytics Workspace	17
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Web	18
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 アプリケーション	19
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Operations Console	19
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Architect	20
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Perspectives	21
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Performance Modeler	22
IBM Planning Analytics と Cognos Insight	23
IBM Planning Analytics と Cognos Analysis for Microsoft Excel	24
IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Mobile Contributor	26
IBM Planning Analytics における Cognos Command Center のエージェント	26
IBM Planning Analytics Control	29
<b>第 3 章 IBM Planning Analytics モデル作成タスク</b>	<b>31</b>
Cognos TM1 Server の管理	31
IBM Planning Analytics Control の実行	31
TM1 サーバーの停止と開始	31
IBM Planning Analytics システムのコンテンツの更新	32
オンプレミス・データ・ソースとのセキュア接続の管理	33
ネイティブ・セキュリティーを使用する Cognos TM1 ユーザー・アカウントの管理	35
IBM Planning Analytics 共有フォルダーでのファイルの管理	36
IBM Planning Analytics へのローカル・ファイルのコピー	37
IBM Planning Analytics によるデータのロードおよびマイグレーション	38
<b>付録 A. IBM Planning Analytics に関するよくある質問</b>	<b>39</b>
<b>付録 B. IBM Planning Analytics の技術的考慮事項</b>	<b>43</b>
IBM Planning Analytics での複製と同期	43
IBM Planning Analytics システムのタイム・ゾーンとクロック設定値	43
IBM Planning Analytics での TurboIntegrator ASCIIOutput 関数と TextOutput 関数	43
IBM Planning Analytics および Cognos TM1 Architect の表示の問題	44
IBM Planning Analytics および Cognos TM1 Architect でのメッセージ・ログの表示	44
IBM Planning Analytics での TM1 REST API へのアクセス	44

付録 C. ユーザー補助機能 . . . . .	47
キーボード・ショートカット . . . . .	47
IBM およびユーザー補助 . . . . .	49
特記事項 . . . . .	51
索引 . . . . .	55

---

## はじめに

本書では、IBM® Planning Analytics システムおよびその TM1 関連コンポーネントと対話する方法について説明します。また、一般的なモデル作成の作業を実行する方法についても説明します。本書は、IBM Planning Analytics システムのモデル作成者が、クラウド環境に固有のステップおよび機能を理解するのに役立ちます。

IBM Planning Analytics システムは、リモート・ホスト環境で作動するので、本書では IBM Planning Analytics システムとリモートに対話する方法、および接続する方法について説明します。本書はまた、IBM Planning Analytics システムの概要と、複数クラウド環境での作業方法についても記載します。

以下のタスクに関する情報およびステップが提供されます。

- IBM Planning Analytics システムで提供される各プログラムの実行方法。
- ローカル・コンピューターと IBM Planning Analytics システムとの間でのファイルの移動方法。
- リモート・デスクトップ・セッションによる IBM Planning Analytics システムへの接続方法。

本書には、IBM Planning Analytics システムで提供される各 Cognos® TM1® プログラムに関する詳細情報は掲載されていません。代わりに、これらの他のプログラムの関連資料へのリンクと共に、各プログラムが IBM Planning Analytics システムでどのように動作するかに関する簡単な説明が掲載されています。

### 対象読者

このガイドを使用するには、以下の概念に精通している必要があります。

- ご使用の Cognos TM1 データおよびモデル作成の要件
- Cognos TM1 のユーザー・セキュリティー・オプションおよび機能
- 基本的な Microsoft Windows ファイル管理
- File Transfer Protocol Secure (FTPS) ツールを使用したリモート・ファイル管理
- リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) ツールを使用したリモート・システム・アクセス

### 情報の検索

資料 (各言語版のすべての資料を含む) を Web で入手するには、IBM Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>) にアクセスしてください。

### ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体に障害を持つ方々に IT 製品をご使用いただけるように支援する機能です。IBM Planning Analytics システムの一部のコンポーネントには、ユーザー補助機能が含ま

れています。これらの機能に関する情報については、IBM Planning Analytics システムに含まれている各 IBM Cognos コンポーネントの資料の、ユーザー補助機能のセクションを参照してください。

IBM Cognos HTML ドキュメントにはユーザー補助機能があります。PDF 文書は補足的なものであるため、追加のユーザー補助機能は含まれていません。

## サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実際の名前、住所、電話番号、または取引額との類似は偶発的なものです。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。無断の複写は禁止されています。

## 将来予想に関する記述

このマニュアルでは、本製品の現在の機能について説明しています。一部の内容で、現在利用できない項目について言及している可能性があります。これは、将来利用できるようになることを意味するものではありません。そのような内容は、資料、コード、または機能の提供に向けた取り組み、確約、あるいは法律上の義務を意味するものではありません。機能の開発、リリース、時期や機能性は IBM の独自の決定によるものとします。

---

## 第 1 章 IBM Planning Analytics のご利用の手引

IBM Planning Analytics のモデル作成者は、クラウド・システム全般と、このシステムと標準的な Cognos TM1 インストール済み環境との相違点について理解しておく必要があります。また、IBM Planning Analytics システムへの接続方法について理解し、この情報を他のユーザーに提供する必要があります。さらに、使用可能なコンポーネントに精通しており、使用可能なコンポーネントを実行するために必要な接続情報および操作指示をユーザーが保持していることを確認することも必要です。

---

### IBM Planning Analytics の概要

Cognos TM1 のモデル作成者は、ご使用の IBM Planning Analytics 環境についてと、さまざまなコンポーネントが連動する仕組みについて理解しておく必要があります。

### IBM Planning Analytics の非実稼働環境と実稼働環境

標準的な IBM Planning Analytics のソリューションには、2 つの別個のクラウド環境またはシステム (非実稼働用のものと実稼働用のもの) が含まれます。環境ごとに、別個のアカウント情報セットを受け取ります。

例えば、開発目的で非実稼働環境を使用し、ライブ環境として実稼働環境を使用することができます。

Cognos TM1 のモデル作成者として、ローカル・コンピューターからリモート・デスクトップ接続を使用していずれかのクラウド・システムに接続します。クラウド・システムに接続した後で、そのシステムでホストされているアプリケーションを実行することができます。

ローカル・コンピューターと、いずれかのクラウド・システムの共有フォルダー間で、ファイルを移動することができます。また、別のクラウド・システムの共有フォルダー間でファイルを移動することもできます。

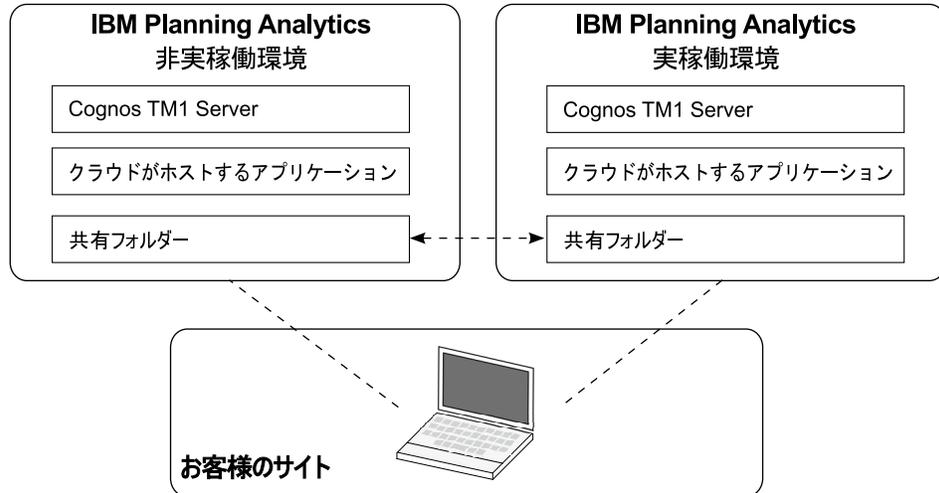


図 1. IBM Planning Analytics の非実稼働環境および実稼働環境の例

## IBM Planning Analytics システム

IBM Planning Analytics には、ユーザーがアクセス可能な安全なリモート・システムでホストされる Cognos TM1 環境が用意されています。各 IBM Planning Analytics システムでは、エンド・ユーザーおよびモデル作成者を対象とした、Cognos TM1 デスクトップ、Web ベース・アプリケーションおよびモバイル・アプリケーションのコレクションがサポートされています。また、各システムには、データ・ファイルを格納したり、データ・ファイルにアクセスしたりするための共有フォルダーも含まれています。

IBM Planning Analytics システムに含まれるメインコンポーネントは、以下のとおりです。

- Planning Analytics Workspace
- Cognos Business Intelligence
- Watson Analytics。これはセルフサービス分析用として使用され、データから自動的にオポチュニティーやリスクに関する新たな洞察を発見するためのものです。
- Secure Gateway。オンプレミス ODBC データ・ソースとのデータ統合用
- Cognos TM1 Server
- Cognos TM1 がホストするアプリケーションおよびローカル・アプリケーション
- IBM Planning Analytics システム共有フォルダー

以下の図に、標準的な IBM Planning Analytics システムを構成するさまざまなコンポーネントおよびアプリケーションの概要を示します。Cognos TM1 Server、ホストされるアプリケーション、ローカル・アプリケーション、および共有フォルダー間の対話が示されています。

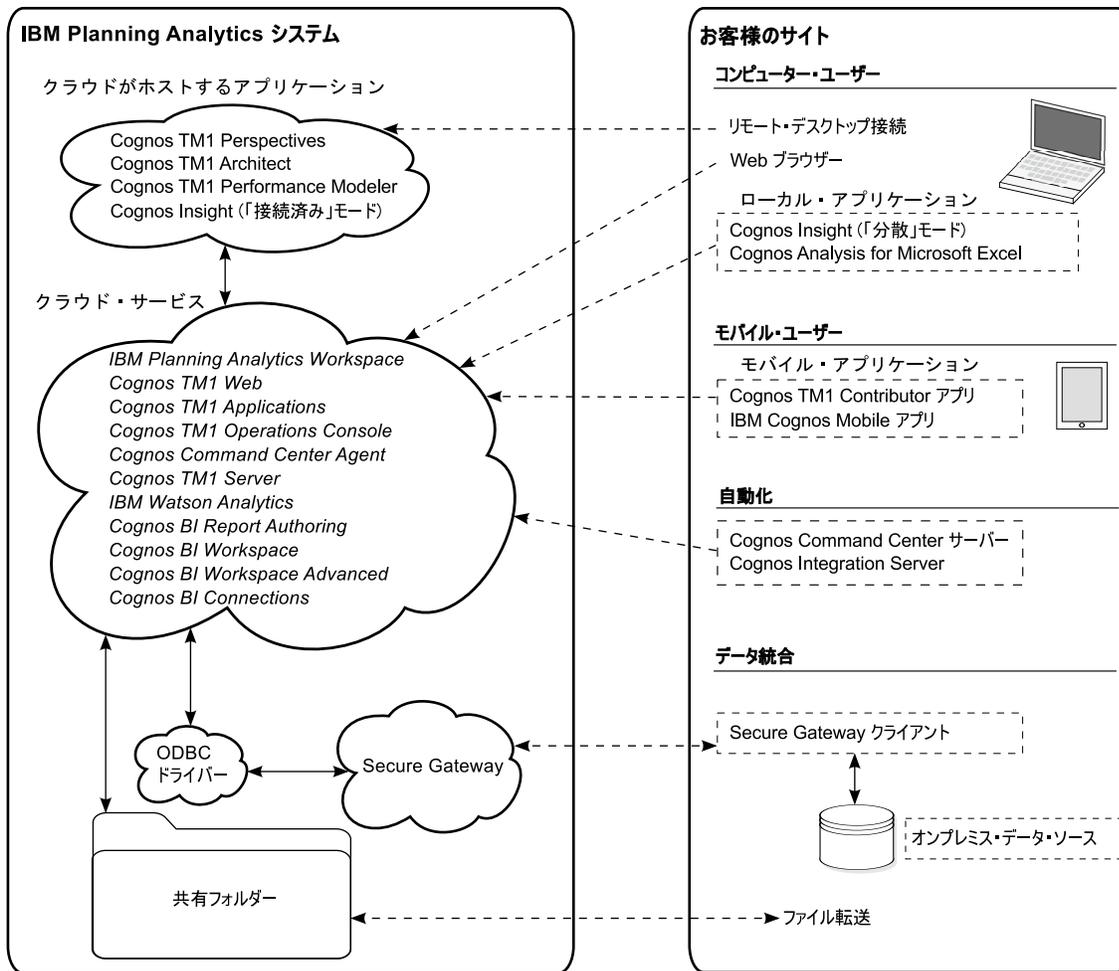


図 2. IBM Planning Analytics システムの概要

## ユーザー・アクセス

IBM Planning Analytics のモデル作成者には、リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) 接続、または File Transfer Protocol Secure (FTPS) アプリケーションを使用して、IBM Planning Analytics システムに直接接続できるユーザー・アカウントがあります。これにより、モデル作成者は、関連する Cognos TM1 デスクトップ・プログラムを実行したり、IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダー内のファイルを管理したりすることができます。

モデル作成者以外の標準的なユーザーは、Web、モバイル、およびローカル Cognos アプリケーションのみを使用して、IBM Planning Analytics システムに接続します。標準的なユーザーは、IBM Planning Analytics システムへの接続に RDP や FTPS を使用しません。

お客様は、サブスクリブするあらゆる Planning Analytics モデル作成者許可ユーザーのためのリモート・デスクトップ用ユーザー・アカウントを入手します。同時ユーザーの数についてライセンス制限や技術的な制限はありません。

## Cognos TM1 Admin Server および Cognos TM1 Server

IBM Planning Analytics システムは、IBM Cognos TM1 Admin Host および Cognos TM1 Server について以下のデフォルト名を使用します。

- デフォルトの Cognos TM1 Admin Host 名: data
- デフォルトの Cognos TM1 Server 名: tm1

### TM1 サーバー間の共有データ

IBM Planning Analytics では、デフォルトで、ご使用のどの TM1 サーバーも共有フォルダー内の任意のデータ・ファイルにアクセスすることが可能です。

**注:** IBM Planning Analytics の旧バージョンの場合、TM1 サーバーがアクセスできるのは、それ独自のデータ・ディレクトリーとサブフォルダーのみでした。データ・ディレクトリー・フォルダーは、ファイル tm1s.cfg と同じレベルにあります。旧バージョンでの制限をそのまま保持して、ある TM1 アプリケーションから別の TM1 アプリケーションのファイルにアクセスできないようにする場合は、Cloud Operations チームに PMR を送信します。

### オンプレミス・データへのセキュア・アクセス

IBM Planning Analytics では、IBM Secure Gateway サービスを使用することによって、オンプレミスの ODBC データ・ソースへのセキュア・アクセスを行うことができます。ODBC ドライバーがクラウドにインストールされていて、かつ Secure Gateway クライアントがお客様のサイトにインストールされているなら、Planning Analytics アプリケーションによりオンプレミス・データを活用することができます。例えば、TurboIntegrator では、スケジューリング、ドリルスルー操作、そして抽出、変換、およびロード (ETL) 操作に関連するデータを効率的に処理できます。

## IBM Planning Analytics のアプリケーションおよびコンポーネント

IBM Planning Analytics には、Cognos TM1 データのモニター、モデル作成、分析、および対話用のコンポーネントのコレクションが含まれています。これらのコンポーネントは、IBM Planning Analytics システムでホストされるか、ローカル・コンピューターまたはモバイル・デバイスに直接インストールされるかのどちらかです。すべてのコンポーネントは、IBM Planning Analytics システムで稼働する Cognos TM1 Server に接続します。

これらの各コンポーネントの実行に関する情報については、17 ページの『第 2 章 IBM Planning Analytics での Cognos TM1 コンポーネントの実行』を参照してください。

### ホストされるアプリケーション

IBM Planning Analytics システム・コンピューターは、Web ブラウザーまたはリモート・デスクトップ接続を介してアクセスされる Planning Analytics プログラムをホストします。

以下の Web ベース・アプリケーションが IBM Planning Analytics システムで実行されます。これらのアプリケーションには、ローカル・コンピューターの Web ブラウザーを使用してアクセスします。

- Planning Analytics Workspace
- Planning Analytics Control
- Cognos TM1 Web
- Cognos TM1 Applications
- Cognos TM1 Operation Console
- Watson Analytics
- Cognos BI Report Authoring
- Cognos BI Workspace
- Cognos BI Workspace Advanced
- Cognos BI Connections

以下のデスクトップ・アプリケーションが IBM Planning Analytics システムで実行されます。これらのアプリケーションには、リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) を使用する IBM Planning Analytics システムに対するリモート・デスクトップ接続を使用してアクセスします。

- IBM Cognos TM1 Perspectives
- IBM Cognos TM1 Architect
- IBM Cognos TM1 Performance Modeler
- IBM Cognos Insight (「接続済み」モード)

注: Cognos Insight は、IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッションで実行する際に、「接続済み」モードでのみ稼働します。リモート・デスクトップ・セッションでの Cognos Insight の実行は、ワークスペース・レイアウトの設計を実行するモデル作成者のみを対象としています。

## ローカル・アプリケーション

以下の IBM Cognos プログラムは、ローカル・コンピューターに直接インストールされて実行され、IBM Planning Analytics システムにリモート側からアクセスします。

- IBM Cognos Insight (「分散」モード)

注: Cognos Insight は、ローカル・コンピューターで実行し、IBM Planning Analytics システムの Cognos TM1 サーバーにリモート側からアクセスする場合には、「分散」モードでのみ稼働します。

- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel
- IBM Cognos Integration Server
- IBM Cognos Command Center

## モバイル・アプリケーション

モバイル・ユーザーは IBM Planning Analytics に接続できます。

- Planning Analytics ユーザーは、IBM Cognos TM1 Mobile Contributor を Apple iPad タブレットで実行することが可能で、IBM Planning Analytics システムにリモートで接続できます。
- Planning Analytics ユーザーは、Cognos BI Mobile を実行することが可能で、Planning Analytics システムの一部である BI 機能に接続できます。

## IBM Planning Analytics 共有フォルダー

IBM Planning Analytics システムには、Cognos TM1 のデータ・ファイルおよび関連ファイル用の専用共有フォルダーが用意されています。

共有フォルダーには、Cloud ウェルカム・キットで提供された共有フォルダーのユーザー名、パスワード、およびアドレスを使用してのみアクセスできます。

### 共有フォルダーのコンテンツ

共有フォルダーには、以下のファイルが含まれています。

- Cognos TM1 のデータ・ファイルおよびログ・ファイル
- IBM Cognos TM1 Performance Modeler からの転送アーカイブ・ファイル
- IBM Cognos TM1 Performance Modeler からの転送仕様ファイル
- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール・ファイル
- IBM Cognos Integration Server のインストール・ファイル
- IBM Cognos Command Center のインストール・ファイル
- IBM Planning Analytics システムで使用するその他のファイルおよびドキュメント

### 共有フォルダーへのアクセス

共有フォルダー・アカウントのユーザー名とパスワードを使用して、以下の方法で共有フォルダーにアクセスできます。

- リモート・デスクトップ・セッションで Windows エクスプローラーを使用して、共有フォルダー内のファイルを管理します。
- ローカル・コンピューターで File Transfer Protocol Secure (FTPS) アプリケーションを使用して、ローカル・コンピューターと共有フォルダー間でファイルを移動します。

**重要:** 転送時にデータが確実に暗号化されるようにするため、IBM Planning Analytics システムの FTP 接続は、FTP with Secure Sockets Layer (FTPS) を使用するように構成されています。必ず FTPS をサポートする FTP アプリケーションを使用してください。

- 複数のクラウド環境がある場合は、エクスプローラーを使用して各環境の共有フォルダー間でファイルを移動できます。

共有フォルダーにアクセスするためのステップについては詳しくは、36 ページの『IBM Planning Analytics 共有フォルダーでのファイルの管理』を参照してください。

## 共有フォルダーのデータ・バックアップ

共有フォルダー内のファイルは、定期的にバックアップされます。詳しくは、IBM サポートに確認してください。

---

## IBM Planning Analytics のアカウントおよびシステム情報

IBM Planning Analytics システムは、会社または組織に割り当てられた専用のユーザー・アカウントおよびシステム・アドレスのグループを通じて管理され、アクセスされます。

初めて IBM Planning Analytics システムを使用する際には、要求した IBM Planning Analytics システムごとの IBM Planning Analytics ウェルカム・キット・ファイルが準備されています。このファイルには、ご使用の IBM Planning Analytics システムに固有のアカウントとシステム情報のセットが含まれています。この情報には、1 つの特定の IBM Planning Analytics システムへの接続に使用するメインユーザーのアカウント資格情報、システム・アドレス、および URL が含まれています。

**注:** IBM Planning Analytics ウェルカム・キットにある情報とオンライン資料との間で相違点や疑問点がある場合、ウェルカム・キットの情報が優先されます。

IBM Planning Analytics ウェルカム・キットのファイルでは、以下のような命名形式が使用されます。

*customername* - IBM Planning Analytics Welcome Kit *date*.txt

**重要:** この情報は、安全な場所に保管してください。提供されるユーザー・アカウントは、リモート・デスクトップと IBM Planning Analytics システムへのファイル転送のアクセス権限を必要とするモデル作成者のみを対象としています。

標準的な IBM Planning Analytics システムには、以下のようなアカウントおよびシステム情報が含まれています。

### IBM Planning Analytics システム・アドレス

IBM Planning Analytics システムの固有のシステム・アドレス。この情報は、IBM Planning Analytics システムへのリモート・デスクトップ・アクセス用に使用します。

標準フォーマット:

*customername*.planning-analytics.ibmcloud.com

通常は、複数の IBM Planning Analytics システム・アドレスを使用します。例えば、非実稼働クラウド環境と実稼働クラウド環境のアドレスを保持できます。

### ユーザー・アカウント名とパスワード

各 IBM Planning Analytics システムには複数のユーザー・アカウントが用意されています。

#### リモート・デスクトップのユーザー・アカウント:

リモート・デスクトップのユーザー・アカウントのユーザー名およびパスワード。

このアカウントは、IBM Planning Analytics システムでリモート・デスクトップ・セッションを実行する際に使用します。例えば、IBM Cognos TM1 Performance Modeler や IBM Cognos TM1 Architect などのホストされるデスクトップ・ベースのプログラムを実行するために、リモート・デスクトップ・セッションを使用します。

このアカウントのユーザー名の形式は、modeler1、modeler2 ～ modelerX です。使用する IBM Planning Analytics システムによっては、1 つ以上のユーザー・アカウントを使用する場合があります。

**重要:** このユーザー・アカウントは、Cognos TM1 の標準ユーザーではなく、Cognos TM1 モデル作成者のみを対象としています。

#### **Cognos TM1 Server の管理者アカウント:**

1 次 Cognos TM1 管理者アカウントのユーザー名とパスワード。

このアカウントは、他の Cognos TM1 ユーザー・アカウントを作成するために Cognos TM1 Performance Modeler または Cognos TM1 Architect にログインする際に使用します。詳細については、35 ページの『ネイティブ・セキュリティーを使用する Cognos TM1 ユーザー・アカウントの管理』を参照してください。

また、このアカウントを使用して、任意の Cognos TM1 ユーザー・インターフェースにログインすることもできます。

**重要:** お客様は、次の 2 つの管理アカウントを受け取ります。

1. IBM ID 管理アカウント
2. ネイティブ TM1 管理アカウント (お客様がモード 1 への切り替えを行う場合)

#### **Cognos Command Center アカウント:**

Cognos Command Center のユーザー名およびパスワード。

このアカウントを使用して Cognos Command Center にログインし、エージェントを処理します。詳細については、26 ページの『IBM Planning Analytics における Cognos Command Center のエージェント』を参照してください。

IBM Planning Analytics ウェルカム・キットには、Cognos Command Center を操作するために使用できる他の情報も含まれます。

#### **共有フォルダーのアカウント:**

IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダーでの File Transfer Protocol Secure (FTPS) および Windows ファイル共有のためのユーザー名およびパスワード。

#### **Cognos TM1 Server の Control アカウント:**

Control ユーティリティーのユーザー名およびパスワード。これを使用して、IBM Planning Analytics システムのすべての TM1 サービスを開始および停止できます。

### **Planning Analytics モデル作成アプリケーション**

この情報は、Cognos TM1 Performance Modeler、Cognos TM1

Architect、Cognos TM1 Perspectives、および Cognos Insight (接続モード) へのリモート・デスクトップ・アクセス用に使用します。

例えば、IBM Planning Analytics システムにリモートで接続するには、以下の形式で Microsoft Windows リモート・デスクトップ接続を使用します。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com`

注: Cognos TM1 Performance Modeler の開始時にプロンプトが表示された場合は、「**IBM Cognos TM1 システム URL**」フィールドに以下の URL が指定されていることを確認します。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/pmpsvc/services`

### **Planning Analytics Web ブラウザー・ベース・アプリケーションの URL**

これらの URL は、ユーザーに提供して、ユーザーがそれぞれの Web ブラウザーから、関連する Planning Analytics Web ベース・アプリケーションにアクセスできるようにすることができます。

- IBM Planning Analytics Workspace

`https://planning-analytics.ibmcloud.com`

- IBM Cognos TM1 Web

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/tm1web/`

- IBM Cognos TM1 Applications

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/pmpsvc/`

- IBM Cognos TM1 Operation Console

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/pmhub/pm/opsconsole/`

### **Planning Analytics Web 接続アプリケーションの URL**

この情報は、以下のアプリケーションのリモート・データ接続を設定するために使用します。

- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com`

- IBM Cognos TM1 Mobile Contributor

– ホスト: `customername.planning-analytics.ibmcloud.com`

– ポート: 443

– SSL を使用: 接続に Secure Sockets Layer (SSL) セキュリティーを使用する場合は、このオプションを **ON** に設定します。

### **共有フォルダー情報**

IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダーでの File Transfer Protocol Secure (FTPS) および Windows ファイル共有のためのユーザー・アカウント情報。この情報には、ユーザー名、パスワード、および共有フォルダーに割り当てられたアドレスが含まれます。

共有フォルダーにアクセスするためのステップについては詳しくは、36ページの『IBM Planning Analytics 共有フォルダーでのファイルの管理』を参照してください。

---

## リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続

リモート・デスクトップ接続を使用して IBM Planning Analytics システムに接続すると、ホストされているデスクトップ・ベースのアプリケーションを実行したり、共有フォルダー内のファイルを管理したりできるようになります。例えば、リモート・デスクトップ接続を開始してから、IBM Cognos TM1 Architect、IBM Cognos TM1 Perspectives、および IBM Cognos TM1 Performance Modeler を実行することができます。

### 始める前に

IBM Planning Analytics は、セキュア・リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) 接続のみをサポートするように設定されています。

IBM Planning Analytics デスクトップ・セッションへの接続を正常に確立するには、ネットワーク・レベル認証 (NLA) をサポートするリモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) アプリケーションを使用する必要があります。RDP アプリケーションは、Microsoft Windows プラットフォームと、非 Windows プラットフォームの両方で使用可能です。

例えば、Microsoft Windows 7、Vista、および XP に標準装備されている「リモートデスクトップ接続」機能を使用できます。この機能について詳しくは、Microsoft Web サイトで「リモート デスクトップ接続を使用して別のコンピューターに接続する」を検索してください。

「Windows リモート デスクトップ接続」のご使用のバージョンが、ネットワーク・レベル認証をサポートしているかどうかを確認するには、以下の手順を実行します。

1. 「リモート デスクトップ接続」ツールを開きます。

このツールは通常、「スタート」メニュー > 「すべてのプログラム」 > 「アクセサリ」 > 「リモート デスクトップ接続」にあります。

2. 「リモート デスクトップ接続」ウィンドウで、ウィンドウの左上隅にあるプログラム・アイコンをクリックしてから、「バージョン情報」をクリックします。
3. 「ネットワーク レベル認証はサポートされています」というテキストがリストされることを確認します。

### 手順

1. RDP アプリケーションを開きます。

例えば、「Windows リモート デスクトップ接続」ツールを開くには、「スタート」メニュー > 「すべてのプログラム」 > 「アクセサリ」 > 「リモート デスクトップ接続」をクリックします。

2. RDP アプリケーションで、IBM Planning Analytics のアカウント情報を入力します。

- IBM Planning Analytics システムのアドレスを入力します。

例:

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com`

- IBM Planning Analytics システムの Windows リモート・デスクトップ・アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。例えば、modelerX と入力します。

**ヒント:** 一部の RDP アプリケーションでは、接続時にのみパスワードを求めるプロンプトが表示されます。

3. リモート・コンピューターの Windows キーの組み合わせで実行するように RDP アプリケーションを設定します。

このオプションは、Windows ログオ・キーおよびその他のキーの組み合わせのキーボード・ショートカットをリモート・コンピューターに送信し、それらのショートカットをそこで実行します。

例えば、このオプションを「Windows リモート デスクトップ接続」ツールで設定する手順は、次のとおりです。

- a. 「オプション」>「ローカル リソース」タブをクリックします。
  - b. 「キーボード」セクションの下で、「Windows のキーの組み合わせを割り当てます」オプションを、「リモート コンピューター」に設定します。
4. すべての情報の入力および設定が完了したら、RDP アプリケーションを使用してリモート・デスクトップ接続を開始します。

接続が正常に確立されたら、IBM Planning Analytics システムのデスクトップが表示されます。

**ヒント:** クラシック・デスクトップ・ビューではなく、新しい Windows の「スタート」メニューが表示される場合、「デスクトップ」アイコンをクリックするか、Windows ログオ・キーを押してクラシック・デスクトップ・ビューに切り替えてください。

## 次のタスク

IBM Planning Analytics デスクトップ・セッションへの接続が正常に確立されると、ホストされるデスクトップ・アプリケーションを実行し、共有フォルダー内のファイルを管理できるようになります。

---

## IBM Planning Analytics と Windows Server 2012

IBM Planning Analytics システムは、Microsoft Windows Server 2012 R2 オペレーティング・システムで稼働します。リモート・デスクトップ接続で IBM Planning Analytics システムに接続する際には、Windows Server 2012 ユーザー・インターフェースと対話します。

IBM Planning Analytics のモデル作成者は、Windows Server 2012 R2 ユーザー・インターフェースと、いくつかの基本的なキーボード・ショートカットを把握してい

る必要があります。これらの機能を把握していることが、IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッションで作業する際に役立ちます。

## Windows Update

IBM サポートでは、ご使用のクラウド環境の Windows オペレーティング・システムに対するアップデートを管理および適用します。

**重要:** IBM Planning Analytics システムでリモート・デスクトップ・セッションを使用する場合、プロンプトが出されても、Windows Update 機能の実行を試みないでください。

## Windows Server 2012 ユーザー・インターフェース

Microsoft Windows Server 2012 R2 のユーザー・インターフェースは、Microsoft Windows 8 の UI に似ています。IBM Planning Analytics システムでは、新しい UI か、または従来の Windows デスクトップ・ビューのいずれかを表示することができます。リモート・デスクトップ接続でシステムに接続する際には、これらのデスクトップ・ビューの間で切り替えることができます。

ホストされる Cognos TM1 デスクトップ・アプリケーションを開くショートカットは、クラシック Windows ビューからのみ使用可能です。クラシック・デスクトップ・ビューと新しいデスクトップ・ビューを切り替えるには、Windows ログ・キーを使用します。

インターネットで以下の句を検索することにより、Windows Server 2012 R2 に関する詳細を確認できます。

- 「Windows Server 2012 の一般的な管理タスクとナビゲーション」
- 「ebook introducing Windows Server 2012 microsoft press RTM Edition」
- 「キーボード ショートカット Windows Server 2012」

## Windows Server 2012 の基本的なキーボード・ショートカット

Windows Server 2012 R2 で使用できる基本的なキーボード・ショートカットは、以下のとおりです。

**ヒント:** キーボード・ショートカットが IBM Planning Analytics システム・コンピューターで稼働することを確認するため、リモート・コンピューターの Windows キーの組み合わせが適用されるようにリモート・デスクトップ接続を設定します。詳細については、10 ページの『リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続』を参照してください。

### Windows ログ・キー

クラシック Windows デスクトップ・ビューと新しい Windows デスクトップ・ビューの間で切り替えます。

**要確認:** ホストされる Cognos TM1 デスクトップ・アプリケーションを開くショートカットは、クラシック Windows ビューからのみ使用可能です。

**Windows ログ・キー + d**

すべての実行中のプログラムを最小化し、クラシック Windows デスクトップのみを表示します。これらのキーをもう一度押すと、実行中のプログラムに再度切り替わります。

**Windows ログ・キー + q**

汎用検索ツールが表示されます。

**Windows ログ・キー + f**

ファイル検索ツールが表示されます。

---

## サービスおよび共有フォルダーへのアクセスの制御

Web サービスにアクセスできるコンピューターを、特定のコンピューターのみに限定するよう要求できます。また、共有フォルダーにアクセスできるユーザーとそのユーザーの権限を制御することもできます。

### Web サービスへのコンピューターのアクセスの制御

他のお客様と共有されていない Web サービスにアクセスできるコンピューターを、特定のコンピューターのみに限定するよう要求できます。ホワイトリスト・ドキュメントを使用して、アクセス権を持つコンピューターの IP 範囲をリストします。

**注:** Planning Analytics ワークスペース、Watson Analytics、および Cognos Business Intelligence の Web サービスへのアクセスを制御するホワイトリストは作成できません。これらはすべて共有サービスだからです。

高水準の IBM サポートを確保するために、IBM Planning Analytics 用のモニター・ツールとオペレーション・チームには、それらの IP アドレスがホワイトリスト・ファイルに含まれていなくても、お客様の Web サービスへのアクセス権限が与えられています。

#### 手順

1. サービス要求を開き、それを IBM サポートに割り当てます。
2. incoming\_firewall\_whitelist.txt という名前のテキスト・ファイルを作成します。
3. そのテキスト・ファイル内に、Web サービスへのアクセスを許可する IP アドレスの範囲をリストします。

**ヒント:** リストされた IP アドレスのコンピューターは、すべての Web サービス (FTP、RDP、HTTP など) にアクセスできます。

4. ファイル incoming\_firewall\_whitelist.txt をサービス要求に添付します。
5. サービス要求を送信します。

### 共有フォルダーへのユーザー・アクセスの制御

共有フォルダーの特定のサブフォルダーに特定のユーザー権限を適用するよう要求できます。

詳細については、6 ページの『IBM Planning Analytics 共有フォルダー』を参照してください。

**注:** ご使用の IBM Planning Analytics 環境は、要求した変更内容の適用中はオフラインになります。

#### 手順

1. サービス要求を開き、それを IBM サポートに割り当てます。
2. `shared_folder_acls.txt` という名前のテキスト・ファイルを作成します。
3. 最大 5 列までのタブ区切りの表を作成します。各行は別々のアクセス制御リスト (ACL) を表します。

例を示します。

パス	ユーザー	権限	継承	タイプ
/	fs_rp2team4_admin	rwd	true	allow
/prod/data/	fs_rp2team4_servers	r	true	allow

表の列の項目は、以下の情報を表します。

- 先頭列の項目はスラッシュ (/) を使用したパスです。単一のスラッシュ (/) は、共有フォルダーのルートを示します。
- 2 列目の項目はユーザー名です。先頭が「fs\_」で、次に環境名、その次にユーザーが定義できる最後の部分が続きます。この項目は、20 文字までにする必要があります。

**ヒント:** 例にある「fs\_rp2team4\_admin」のような、全権限を持つユーザーを作成する必要があります。

- 3 列目の項目は権限です。r (読み取り)、w (書き込み)、d (削除) を示します。権限が指定されていない場合は、rwd が指定されたものと見なされます。
  - 4 列目の項目は、ACL が継承される (つまり子オブジェクトがこの ACL を継承する) かどうかを示します。デフォルトは true です。「true」か「false」を指定できます。
  - 5 列目の項目は、これが「allow」権限と「deny」権限のどちらなのかを示します。デフォルトは「allow」です。
4. ファイル `shared_folder_acls.txt` をサービス要求に添付します。
  5. サービス要求を送信します。

### 共有フォルダーのデータへの TM1 サーバー・アクセスの制御

IBM Planning Analytics では、デフォルトで、ご使用のどの TM1 サーバーも共有フォルダー内の任意のデータ・ファイルにアクセスすることが可能です。

**注:** IBM Planning Analytics の旧バージョンの場合、TM1 サーバーがアクセスできるのは、それ独自のデータ・ディレクトリーとサブフォルダーのみでした。データ・ディレクトリー・フォルダーは、ファイル `tm1s.cfg` と同じレベルにあります。

旧バージョンでの制限をそのまま保持して、ある TM1 アプリケーションから別の TM1 アプリケーションのファイルにアクセスできないようにする場合は、Cloud Operations チームに PMR を送信します。

---

## IBM Planning Analytics の言語設定

IBM Planning Analytics で提供される Cognos TM1 プログラムのユーザー・インターフェース言語を設定できます。これらのプログラムは、標準バージョンの Cognos TM1 と同じ言語を使用するように設定できます。

必ず、Cognos TM1 言語コード ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_inst.10.2.2.doc/c\\_tm1\\_inst\\_tm1languagecodes.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_inst.10.2.2.doc/c_tm1_inst_tm1languagecodes.html)) のトピックにリストされている、サポートされる Cognos TM1 用の言語のいずれか 1 つを選択してください。

### クラウドでホストされるデスクトップ・プログラム用の言語

Microsoft Windows の「コントロール パネル」>「言語」>「言語の追加」オプションを使用して、クラウド・リモート・デスクトップ・セッションでホストされているデスクトップ・プログラム用のユーザー・インターフェース言語を設定します。

この設定は、以下のプログラムに適用されます。

- Cognos TM1 Perspectives
- Cognos TM1 Architect
- Cognos TM1 Performance Modeler
- Cognos Insight (「接続済み」モード)

### クラウドでホストされる Web ブラウザー・ベース・プログラム用の言語

Web ブラウザーの言語オプションを変更することにより、Web ベース・プログラム用のユーザー・インターフェース言語を設定できます。

この設定は、以下のプログラムに適用されます。

- Cognos TM1 Web
- Cognos TM1 Applications
- Cognos TM1 Operation Console

### ローカル・プログラム用の言語

ローカル・コンピューターで実行するプログラム用のユーザー・インターフェース言語を変更するには、Windows の「言語」オプションを使用します。

この設定は、以下のプログラムに適用されます。

- Cognos Insight (「分散」モード)
- Cognos Analysis for Microsoft Excel

### モバイル・アプリケーション用の言語

Cognos TM1 Mobile Contributor アプリケーション用の言語を設定するには、ご使用の iPad の Apple iOS 言語設定を使用します。

---

## IBM Planning Analytics によるドキュメントの設定およびドキュメントへのアクセス

IBM Knowledge Center の Cognos TM1 ドキュメントには、Web ブラウザーを使用してアクセスすることも、任意の TM1 コンポーネントの「ヘルプ」メニューから直接アクセスすることもできます。Cognos TM1 ドキュメンテーションに、クラウドのリモート・デスクトップ・セッションからアクセスする場合は、そのドキュメントの場所が信頼済みサイトとして組み込まれるようにリモート Web ブラウザーを設定する必要があります。

IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッション内で Cognos TM1 ドキュメントを正しく表示するには、その IBM Planning Analytics システム上で Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーを設定します。

1. IBM Planning Analytics システム上で Microsoft Internet Explorer を開きます。
2. 「ツール」>「インターネット オプション」をクリックしてから、「セキュリティ」タブをクリックします。
3. Cognos TM1 Performance Modeler ヘルプ・システムの場所を追加します。
  - a. 「ローカル イン트라ネット」をクリックしてから、「サイト」ボタンをクリックします。
  - b. 「追加」をクリックして「http://127.0.0.1」と入力します。
  - c. 「閉じる」をクリックします。
4. IBM Knowledge Center の基本 URL を追加します。
  - a. 「信頼済みサイト」をクリックしてから、「サイト」ボタンをクリックします。
  - b. 「追加」をクリックして、「http://www.ibm.com」と入力します。
  - c. 「閉じる」をクリックします。
5. 「OK」をクリックして「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスを閉じます。

### IBM Knowledge Center の TM1 ドキュメントへのアクセス

IBM Knowledge Center を使用して、利用可能なすべての TM1 ドキュメントにアクセスすることができます。

IBM Knowledge Center ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ctm1.doc/welcome.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ctm1.doc/welcome.html)).

---

## 第 2 章 IBM Planning Analytics での Cognos TM1 コンポーネントの実行

モデル作成者は、IBM Planning Analytics で使用可能な IBM Cognos TM1 コンポーネントの実行方法について理解しておく必要があります。

---

### IBM Planning Analytics と Planning Analytics Workspace

IBM Planning Analytics Workspace は、TM1 用の新しい Web ベースのインターフェースです。

Planning Analytics Workspace を実行するには、以下の手順を実行します。

1. ローカル・コンピュータで、Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://planning-analytics.ibmcloud.com`

2. ログイン・ページで必要な情報を入力します。

- **username** と **password** には、有効な Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力します。

モデル作成者は、クラウド・ウェルカム・キットで提供される Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力できます。

標準ユーザーは、割り当てられた Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力します。

3. 「ログイン」をクリックします。

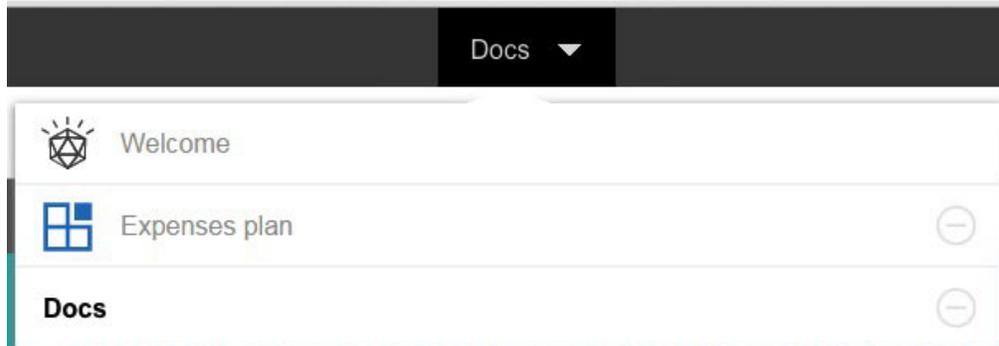
### IBM Planning Analytics Workspace 資料

Planning Analytics Workspace アプリケーションから IBM Planning Analytics Workspace のヘルプにアクセスできます。



Planning Analytics Workspace 内のオンライン・ヘルプを参照するには、 をタップしてから、「ドキュメント (Docs)」をタップしてください。

Planning Analytics Workspace にナビゲートして戻るには、「ドキュメント (Docs)」をタップします。



次に、「ようこそ」またはブックの名前をタップします。

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Web

Cognos TM1 Web は、IBM Planning Analytics システムでホストされ、ローカル・コンピューターの Web ブラウザーで実行します。

Cognos TM1 Web を実行するには、IBM Planning Analytics ウェルカム・キットに記載された関連 URL を覚えておくこと、および有効な Cognos TM1 ユーザー・アカウントを保持していることが必要です。

1. ローカル・コンピューターで、Web ブラウザーを開いて Cognos TM1 Web 用に提供された URL を入力します。

例えば、Cognos TM1 Web は、以下の URL フォーマットを使用します。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/tmlweb/`

2. ログイン・ページで必要な情報を入力します。
  - 「**TM1 Server**」では、デフォルト値の **tm1** を使用します。
  - 「**ユーザー名**」および「**パスワード**」には、有効な Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力します。

モデル作成者は、IBM Planning Analytics ウェルカム・キットで提供される Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力できます。

標準ユーザーは、割り当てられた Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力します。

3. 「**ログイン**」をクリックします。

### Cognos TM1 Web の資料

Cognos TM1 Web の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

IBM Cognos TM1 ユーザー・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_ug.10.3.0.doc/c\\_tm1\\_ug\\_pref\\_intro.html%23tm1\\_ug\\_pref\\_intro?lang=en](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_ug.10.3.0.doc/c_tm1_ug_pref_intro.html%23tm1_ug_pref_intro?lang=en))。

---

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 アプリケーション

ローカル・コンピューターで Web ブラウザーを使用して、IBM Planning Analytics システムで Cognos TM1 Applications を実行します。

1. ローカル・コンピューターで、Web ブラウザーを開いて Cognos TM1 Applications の URL を入力します。

例えば、Cognos TM1 Applications は、以下の URL フォーマットを使用します。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/pmpsvc/`

2. ログイン・ページで必要な情報を入力します。

「ユーザー名」および「パスワード」には、有効な Cognos TM1 ユーザー・アカウントを入力します。

3. 「ログイン」をクリックします。

### Cognos TM1 Applications の資料

Cognos TM1 Applications の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

IBM Cognos TM1 Applications ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_cont\\_ug.10.3.0.doc/c\\_tm1\\_applications\\_intro.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_cont_ug.10.3.0.doc/c_tm1_applications_intro.html))。

---

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Operations Console

ローカル・コンピューターの Web ブラウザーから IBM Cognos TM1 Operations Console を実行して、IBM Planning Analytics システムで IBM Cognos TM1 サーバーをモニターします。

デフォルトでは、Cognos TM1 Operations Console は、IBM Planning Analytics システム上の tm1 という名前のデフォルトの Cognos TM1 サーバーをモニターします。このサーバーは、Cognos TM1 Operations Console にログインする際のユーザーおよびグループの認証にも使用されます。

### Cognos TM1 Operations Console のデフォルト設定

Cognos TM1 Operations Console は、IBM Planning Analytics システムで以下の設定を使用します。

- 管理ホスト: data
- Cognos TM1 Server: tm1
- 認証用の Cognos TM1 グループ: admin
- Cognos TM1 ユーザー・アカウント: admin

Cognos TM1 Operations Console にログインする際に、この情報を使用します。

## IBM Planning Analytics での Cognos TM1 Operations Console の実行

Cognos TM1 Operations Console を実行するには、関連 URL と、IBM Planning Analytics ウェルカム・キットで提供されている管理者アカウントなどの有効な Cognos TM1 ユーザー・アカウントが必要です。

1. ローカル・コンピュータで、Web ブラウザーを開いて Cognos TM1 Operations Console 用に提供された URL を入力します。

例えば、Cognos TM1 Operations Console は、以下の URL フォーマットを使用します。

```
https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/pmhub/pm/opsconsole/
```

2. ログイン・ページで必要な情報を入力します。
  - a. 「管理ホスト」では、「**data**」を選択します。
  - b. 「サーバー名」では、「**tm1**」を選択します。
  - c. 「グループ」では、「**admin**」を選択します。
  - d. 「admin」と提供されたパスワードなど、有効な Cognos TM1 ユーザー名およびパスワードを使用します。
3. 「ログイン」をクリックします。

### Cognos TM1 Operations Console の資料

Cognos TM1 Operations Console の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

IBM Cognos TM1 Operations Console ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_ops\\_console.10.3.0.doc/c\\_tm1\\_inst\\_ops\\_console\\_intro.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_ops_console.10.3.0.doc/c_tm1_inst_ops_console_intro.html))。

---

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Architect

IBM Cognos TM1 Architect は、IBM Planning Analytics システムとのリモート・デスクトップ・セッションで実行するデスクトップ・アプリケーションです。

IBM Planning Analytics システムで Cognos TM1 Architect を実行するには、以下のステップを実行します。

1. リモート・デスクトップ接続を使用して IBM Planning Analytics システムに接続します。

詳細については、10 ページの『リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続』を参照してください。

**ヒント:** クラシック・デスクトップ・ビューではなく、新しい Windows の「スタート」メニューが表示される場合、「**デスクトップ**」アイコンをクリックするか、Windows ロゴ・キーを押してクラシック・デスクトップ・ビューに切り替えてください。

2. 「**Architect**」のデスクトップ・ショートカットをダブルクリックします。

3. Cognos TM1 Architect で、**TM1** ノードを展開し、**tm1** サーバー・ノードをダブルクリックします。
4. 有効な Cognos TM1 のユーザー名およびパスワードを入力してから、「**OK**」をクリックします。

**ヒント:** IBM Planning Analytics ウェルカム・キットで提供された TM1 Server 管理者アカウントを使用してログインすることができます。

5. ログインに成功すると、Cognos TM1 Server オブジェクト・ツリーが表示されま

## Cognos TM1 Architect の資料

Cognos TM1 Architect の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

- IBM Cognos TM1 ユーザー・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_ug.10.3.0.doc/c\\_tm1\\_ug\\_pref\\_intro.html%23tm1\\_ug\\_pref\\_intro](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_ug.10.3.0.doc/c_tm1_ug_pref_intro.html%23tm1_ug_pref_intro))
- IBM Cognos TM1 操作ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_op.10.3.0.doc/c\\_preface\\_tm1\\_ops.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_op.10.3.0.doc/c_preface_tm1_ops.html))

---

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Perspectives

IBM Cognos TM1 Perspectives は、IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッションで実行する Microsoft Excel 用のアドインです。

IBM Planning Analytics システムで Cognos TM1 Perspectives を実行するには、以下のステップを実行します。

1. リモート・デスクトップ接続を使用して IBM Planning Analytics システムに接続します。

詳細については、10 ページの『リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続』を参照してください。

**ヒント:** クラシック・デスクトップ・ビューではなく、新しい Windows の「スタート」メニューが表示される場合、「**デスクトップ**」アイコンをクリックするか、Windows ログ・キーを押してクラシック・デスクトップ・ビューに切り替えてください。

2. 「**Perspectives**」のデスクトップ・ショートカットをダブルクリックします。
3. 「**Microsoft Excel セキュリティに関する通知**」ダイアログが表示される場合は、「**マクロを有効にする**」をクリックして続行します。
4. Excel の TM1 メニューで、「**接続**」をクリックして Cognos TM1 Server にログインします。
5. 「**TM1 Server に接続**」ダイアログに、以下の情報を入力します。
  - 「**サーバー ID**」では、「**tm1**」を選択します。
  - 「**クライアント ID**」では、Cognos TM1 のユーザー名を入力します。
  - 「**パスワード**」では、Cognos TM1 のパスワードを入力します。

**ヒント:** IBM Planning Analytics ウェルカム・キットで提供された TM1 Server 管理者アカウントを使用してログインすることができます。

- 「OK」をクリックします。

6. ログインに成功すると、確認メッセージが表示されます。

## Cognos TM1 Perspectives の資料

Cognos TM1 Perspectives の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

IBM Cognos TM1 ユーザー・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_ug.10.3.0.doc/c\\_tm1\\_ug\\_pref\\_intro.html%23tm1\\_ug\\_pref\\_intro](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_ug.10.3.0.doc/c_tm1_ug_pref_intro.html%23tm1_ug_pref_intro))

---

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Performance Modeler

IBM Cognos TM1 Performance Modeler は、IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ接続から実行できます。

このコンポーネントを実行する手順は、以下のとおりです。

1. リモート・デスクトップ接続を使用して IBM Planning Analytics システムに接続します。

詳細については、10 ページの『リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続』を参照してください。

**ヒント:** クラシック・デスクトップ・ビューではなく、新しい Windows の「スタート」メニューが表示される場合、「デスクトップ」アイコンをクリックするか、Windows ログ・キーを押してクラシック・デスクトップ・ビューに切り替えてください。

2. 「IBM Cognos TM1 Performance Modeler」のデスクトップ・ショートカットをダブルクリックします。
3. 「接続」ダイアログで、「IBM Cognos TM1 システム URL」フィールドに以下の URL が指定されていることを確認します。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/pmpsvc/services`

4. 「ログオン」をクリックし、Cognos TM1 のユーザー名とパスワードを入力してから、「ログイン」をクリックします。
5. 「TM1 Server」ドロップダウン・リストで、ログイン先のサーバーを選択してから、「OK」をクリックします。

例えば、IBM Planning Analytics システムのデフォルトの Cognos TM1 サーバーは「tm1」という名前です。

## Cognos TM1 Performance Modeler の資料

Cognos TM1 Performance Modeler の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.prfindl\\_ug.10.3.0.doc/c\\_prfindl\\_intro.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.prfindl_ug.10.3.0.doc/c_prfindl_intro.html))。

---

## IBM Planning Analytics と Cognos Insight

IBM Planning Analytics システムで IBM Cognos Insight を使用して、ユーザーが TM1 データを分析、閲覧、および共有できるマネージド・ワークスペースを作成します。

ユーザーの役割に応じて、IBM Planning Analytics システムによるリモート・デスクトップ接続から、またはローカル・コンピューターから直接、IBM Cognos Insight を実行します。

### IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッションから Cognos Insight を実行する

Cognos TM1 のモデル作成者は、IBM Planning Analytics システム上のリモート・デスクトップ・セッションから直接 Cognos Insight を実行できます。この方式は、ワークスペースのレイアウト設計を目的としています。

1. リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) アプリケーションを開いて、IBM Planning Analytics システムに接続します。

詳細については、10 ページの『リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続』を参照してください。

**ヒント:** クラシック・デスクトップ・ビューではなく、新しい Windows の「スタート」メニューが表示される場合、「デスクトップ」アイコンをクリックするか、Windows ロゴ・キーを押してクラシック・デスクトップ・ビューに切り替えてください。

2. 「IBM Cognos Insight」のデスクトップ・ショートカットをダブルクリックします。

### ローカル・コンピューターで Cognos Insight を実行する

IBM Cognos TM1 Applications 内部のアプリケーション・ノードを処理する際に、Cognos TM1 ユーザーとして IBM Cognos Insight を実行します。初めて Cognos Insight を実行する場合は、ローカル・コンピューターにインストールするよう指示するプロンプトが表示されます。

**注:** IBM Cognos Insight は、そのプログラムをローカル・コンピューターで実行して IBM Planning Analytics システムに接続する場合には、分散モードのみで実行されます。

1. Cognos TM1 Applications を開きます。

ローカル・コンピューターで、Web ブラウザーを開いて Cognos TM1 Applications 用に提供された URL を入力します。

例:

<https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com:443/pmpsvc/>

詳細については、19 ページの『IBM Planning Analytics と Cognos TM1 アプリケーション』を参照してください。

2. Cognos Insight を開きます。
  - a. Cognos TM1 Applications で、アプリケーションを開きます。
  - b. アプリケーション・ノードを右クリックして、「**Cognos Insight を開く - 分散**」を選択します。
  - c. Cognos Insight のインストールを求めるプロンプトが表示された場合、プロンプトに従ってプログラムの初回インストールを実行します。

## Cognos Insight の資料

Cognos Insight の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

- IBM Cognos Insight チュートリアル ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSVJ22\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.coginsight\\_tut.10.3.0.doc/c\\_coginsight\\_tut\\_intro\\_introduction.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSVJ22_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.coginsight_tut.10.3.0.doc/c_coginsight_tut_intro_introduction.html))。
- IBM Cognos Insight ユーザー・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSVJ22\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.dsk\\_ug.10.3.0.doc/c\\_dsk\\_intro.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSVJ22_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.dsk_ug.10.3.0.doc/c_dsk_intro.html))。

---

## IBM Planning Analytics と Cognos Analysis for Microsoft Excel

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使用して、IBM Planning Analytics システムの Cognos TM1 サーバーからデータにアクセスすることができます。

Cognos Analysis for Microsoft Excel を IBM Planning Analytics で使用するには、まずこのアプリケーションをダウンロード、インストール、および設定する必要があります。アプリケーションを使用するユーザーに応じて、インストール・プログラムを同じ組織の他の Cognos TM1 ユーザーに対して分散または使用可能にする必要がある場合があります。

### Cognos Analysis for Microsoft Excel のダウンロードおよびインストール

Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール・ファイルは、ご使用の IBM Planning Analytics システムの共有フォルダー内にあります。

1. File Transfer Protocol Secure (FTPS) をサポートする FTP アプリケーションを使用して、IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダーに接続します。

詳細については、37 ページの『IBM Planning Analytics へのローカル・ファイルのコピー』を参照してください。

2. 以下の場所にある 32 ビットまたは 64 ビットのインストール・プログラムを見つけて、ローカル・コンピューターにダウンロードします。
  - `¥¥data¥s¥install¥cafe¥10.3.x.x¥win32`
  - `¥¥data¥s¥install¥cafe¥10.3.x.x¥win64h`
3. `issetup.exe` ファイルをダブルクリックして、ローカル・コンピューターでインストール・プログラムを実行します。

4. インストール・プログラムを、同じ組織の他の Cognos TM1 ユーザーに対して分散または使用可能にします。

Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストールについて詳しくは、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel インストール・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ig\\_cxr.10.3.0.doc/c\\_ig\\_cor\\_introduction.html%23ig\\_cor\\_Introduction](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ig_cxr.10.3.0.doc/c_ig_cor_introduction.html%23ig_cor_Introduction)) を参照してください。

## IBM Planning Analytics への Cognos Analysis for Microsoft Excel の接続

Cognos Analysis for Microsoft Excel が IBM Planning Analytics システム上の Cognos TM1 サーバーにアクセスできるようにするには、その前に、Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール済み環境を設定する必要があります。

1. Cognos Analysis for Microsoft Excel のツールバーにある「オプション」アイコンを使用すると、IBM Planning Analytics システムに対する接続を設定できます。
2. IBM Planning Analytics ウェルカム・キットで提供された Cognos Analysis for Microsoft Excel のアドレスを追加します。例:

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/`

詳細については、「*IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel ユーザー・ガイド*」の以下のトピックを参照してください。

- IBM Cognos システムへの接続の設定

([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug\\_cxr.10.3.0.doc/t\\_ug\\_cxr\\_mdddmdfrl.html%23id\\_cxr\\_gt\\_strtd\\_modify\\_URL](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug_cxr.10.3.0.doc/t_ug_cxr_mdddmdfrl.html%23id_cxr_gt_strtd_modify_URL))

- ユーザー認証の設定

([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug\\_cxr.10.3.0.doc/t\\_coi\\_gt\\_strtd\\_enable\\_signon.html%23coi\\_gt\\_strtd\\_enable\\_signon](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug_cxr.10.3.0.doc/t_coi_gt_strtd_enable_signon.html%23coi_gt_strtd_enable_signon))

- IBM Cognos サーバーへのログオン

([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug\\_cxr.10.3.0.doc/t\\_coi\\_gt\\_strtd\\_log\\_on.html%23coi\\_gt\\_strtd\\_Log\\_On](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug_cxr.10.3.0.doc/t_coi_gt_strtd_log_on.html%23coi_gt_strtd_Log_On))

## Cognos Analysis for Microsoft Excel の資料

Cognos Analysis for Microsoft Excel の以下の資料を、IBM Knowledge Center から入手できます。

- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel インストール・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ig\\_cxr.10.3.0.doc/c\\_ig\\_cor\\_introduction.html%23ig\\_cor\\_Introduction](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ig_cxr.10.3.0.doc/c_ig_cor_introduction.html%23ig_cor_Introduction))

- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel ユーザー・ガイド  
([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug\\_cxr.10.3.0.doc/c\\_corwelcomeintro.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSHM9K_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.ug_cxr.10.3.0.doc/c_corwelcomeintro.html))

---

## IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Mobile Contributor

Apple iPad の IBM Cognos TM1 Mobile Contributor を使用して、IBM Planning Analytics システムの IBM Cognos TM1 Applications でホストされるプランニング・アプリケーションにアクセスします。

モバイル・ユーザーは、すべてのプランニング・アプリケーションにアクセスし、すべての承認ノードの送信状況を表示し、iPad アプリケーション内でグリッド形式またはグラフ形式によりキューブ・ビューと対話することができます。また、iPad で値を変更し、データが更新される IBM Cognos TM1 Server 上の計画にそれらの値を送り返すこともできます。

### iPad での Cognos TM1 Mobile Contributor のインストールおよび設定

iPad ユーザーは、Cognos TM1 Mobile Contributor を Apple App Store から iPad に直接インストールします。

1. iPad で、App Store プログラムを開いて『IBM Cognos TM1』を検索し、Cognos TM1 Mobile Contributor アプリケーションを見つけます。
2. そのアプリケーションをインストールします。
3. Cognos TM1 Mobile Contributor を実行して、IBM Planning Analytics システムに接続できるようにアプリを設定します。
4. ウェルカム画面で、「新しい接続の追加」 正符号 (+) ボタンをタップします。
5. 「接続」ダイアログで、接続情報を入力します。
  - Cloud ウェルカム・キットで提供された Cognos TM1 Mobile Contributor のアドレスを、「ホスト」に入力します。

例:

```
customername.planning-analytics.ibmcloud.com
```

注: `https://` の接頭部は必須ではありません。

- 「接続名」に、この接続に関する独自のテキスト記述を入力します。
  - 「サーバー・ポート」では、ポートを 443 に設定します。
  - 「SSL を使用」では、オプションを「ON」に設定します。
6. 「接続」をタップして、設定を保存し、接続を作成します。
  7. プロンプトが表示されたら、Cognos TM1 のユーザー名とパスワードを入力し、接続を完了します。

---

## IBM Planning Analytics における Cognos Command Center のエージェント

IBM Cognos Command Center® を使用して TM1 Server を自動化できます。

IBM Planning Analytics を使用して、Cognos Command Center にタスクを送信できます。

- TI プロセスをファイル管理に結びつけるタスクを作成できます。例えば、FTPS によるクラウドへのデータ・ファイルのスケジュール済みアップロードを自動化し、かつ IBM Planning Analytics システムにデータをインポートする TI プロセスを実行するタスクを作成できます。その後そのタスクにより、2 つ目の TI プロセスを実行して最初の TI プロセスの結果をエクスポートし、ローカル・コンピューターに結果をダウンロードし直すことができます。
- Cognos Command Center の他の機能も使用できます。例えば、ログ・ファイルを解析して問題を見つけ、アラートを受信できます。
- Cognos Command Center を使用して、オンプレミスの処理とクラウドの処理とを連携させることができます。クラウド間の処理も管理できます。

#### 重要:

- エージェントが Windows 管理者ではないため、Windows サービスとして実行される TM1 Server を再始動させるためにエージェントを使用することはできません。
- E メール・サーバーが構成されていません。ただし、メーリングに関する他のソリューションがクラウドから使用できます。

**重要:** 初めて IBM Planning Analytics システムを使用する際には、要求した IBM Planning Analytics システムごとの IBM Planning Analytics ウェルカム・キット・ファイルが準備されています。IBM Planning Analytics ウェルカム・キットには、Cognos Command Center にエージェントを設定するのに必要な情報と、Cognos Command Center サーバーにコンピューティング・リソースを設定するのに必要な情報が含まれています。詳細については、7 ページの『IBM Planning Analytics のアカウントおよびシステム情報』を参照してください。

## Cognos Command Center サーバーへのエージェントの設定方法

エージェントは IBM Cognos Command Center に追加される必要があり、その接続プロパティは Cognos Command Center サーバーがエージェントと対話できるように構成されなければなりません。

1. Cognos Command Center ナビゲーション・ツリーで、「**セットアップと設計**」をクリックします。
2. 「**セットアップと設計**」タブで、「**エージェント**」をクリックします。
3. エージェントを作成するには、「**新規**」アイコン  をクリックするか、エージェント項目を右クリックして「**新規**」をクリックします。
4. 新規エージェントの名前を指定します。
5. 以下のプロパティを指定します。
  - 「**ホスト名**」。例えば、*customername.planning-analytics.ibmcloud.com*。
  - 「**ポート**」例えば、*443*。
  - 「**プラットフォーム**」例えば、*Windows*。
  - 「**エージェント・ユーザー名**」例えば、*admin*。

- 「エージェント・パスワード」。例えば、IBM Planning Analytics ウェルカム・キットに含まれている 50 文字のパスワード。
6. 「エージェントのテスト」をクリックして、エージェントへの接続が正常に動作していることを確認します。

**重要:** テスト接続が動作するには、エージェントはホスト上で実行される必要があります。

エージェントの作成について詳しくは、エージェント ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPLNP\\_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.ag\\_ccc.10.2.2.doc/c\\_ag\\_ccc\\_agents.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPLNP_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.ag_ccc.10.2.2.doc/c_ag_ccc_agents.html)) を参照してください。

## Cognos Command Center サーバーへのコンピューティング・リソースの設定方法

このコンピューティング・リソース・タイプは、IBM Cognos TM1 Server インスタンスを示します。

1. Cognos Command Center ナビゲーション・ツリーで、「セットアップと設計」をクリックします。
2. 「エコシステム」をクリックします。
3. エコシステムを開きます。例えば、ナビゲーション・ウィンドウで既存のエコシステムをダブルクリックします。
4. 「エコシステム・エディター」ウィンドウで、「コンピューター・リソース」タブをクリックします。
5. 「コンピューティング・リソースを追加」アイコンをクリックして  新しいコンピューティング・リソースを追加します。

新しいコンピューティング・リソース・エディターが開きます。

6. TM1 コンピューティング・リソースを追加するには、「タイプ」ドロップダウン・リストから「**TM1 Server**」を選択します。

TM1 リソース属性が表示されます。

7. 以下の属性を構成します。
  - 「エージェント」 「Cognos Command Center サーバーへのエージェントの設定方法」タスクで作成したエージェントを使用します。
  - 「ホーム・ディレクトリー」 例えば、*c:¥ccc¥your\_choice*。
  - 「管理ホスト」 例えば、*data*。
  - 「サーバー名」 例えば、*your\_TM1\_server name*。
  - 「ユーザー名」 例えば、*your\_TM1\_user name*。
  - 「パスワード」 例えば、*your\_TM1\_password*。
  - 「CAM ネームスペース名」 空のままにします。
  - 「証明書鍵ストア」 例えば、*c:¥tm1¥bin64¥ssl¥tm1store*。
  - 「証明書鍵ストアのパスワード」 例えば、*applix*。

詳しくは、IBM Cognos TM1 プラグインの構成 ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPLNP\\_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.ug\\_ccc\\_pi\\_tm1.10.2.2.doc/c\\_ug\\_ccc\\_pi\\_tm1\\_configuration.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPLNP_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.ug_ccc_pi_tm1.10.2.2.doc/c_ug_ccc_pi_tm1_configuration.html)) を参照してください。

## Cognos Command Center の資料

Cognos Command Center の資料を、IBM Knowledge Center ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPLNP\\_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.ccc.doc/welcome.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPLNP_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.ccc.doc/welcome.html)) から入手できます。

---

## IBM Planning Analytics Control

IBM Planning Analytics Control を使用すると、ご使用の環境内で実行しているどの TM1 サーバーでも管理できます。また、これを使用して、オンプレミスのデータ・ソースへのセキュア・ゲートウェイ接続を作成して管理することもできます。

Planning Analytics Control を実行して、以下のタスクを行います。

- TM1サーバーを停止してから開始します。
- Planning Analytics システム上のコンテンツを更新します。
- オンプレミス・データ・ソースへのセキュアな接続を管理します。



---

## 第 3 章 IBM Planning Analytics モデル作成タスク

IBM Planning Analytics システムのモデル作成者は、IBM Planning Analytics システムにおけるファイルのアップロードや管理、およびデータのマイグレーションなど、クラウド環境に固有のステップについて理解しておく必要があります。

---

### Cognos TM1 Server の管理

IBM Planning Analytics Control を使用することにより、IBM Planning Analytics システム上の IBM Cognos TM1 Server の一部の管理タスクを自分で実行することができます。その他のタスクには、IBM サポートの支援が必要です。

注: IBM Planning Analytics システムで、新規 TM1 サーバー・インスタンスを作成したり、既存の TM1 サーバー・インスタンスを削除したりする場合は、IBM サポートにお問い合わせください。新規 TM1 サーバーにおいては、そうすることによって、正しいセキュリティー、リカバリー、および接続がセットアップされます。

### IBM Planning Analytics Control の実行

IBM Planning Analytics Control を実行するには、関連 URL、および Planning Analytics ウェルカム・キットに付属の管理者アカウントが必要です。

#### 手順

1. ローカル・コンピューターで Web ブラウザーを開き、IBM Planning Analytics Control 用に提供された URL を入力します。

例えば、IBM Planning Analytics Control では、以下の URL の形式が使用されます。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/control`

2. 管理者アカウント・ユーザー ID (admin など) と、それに対応するパスワードを入力します。
3. 「ログイン」をクリックします。

### TM1 サーバーの停止と開始

場合によっては、IBM Planning Analytics システム内の TM1 サーバー・インスタンスを停止してから再始動することが必要になる場合があります。

そのためには、IBM Planning Analytics Control ユーティリティーを使用します。

#### 手順

1. ローカル・コンピューターで、Web ブラウザーを開き、IBM Planning Analytics の URL を入力します。

`https://customername.planning-analytics.ibmcloud.com/control/`

2. ログイン情報を入力します。

- a. 「ユーザー名」フィールドに control と入力します。
  - b. 「パスワード」フィールドに、IBM Planning Analytics ウェルカム・キットに記載されていたコントロール・ユーザー・アカウントのパスワードを入力します。
3. リストされた TM1 サーバーについて、必要に応じてボタンをクリックします。
    - コンテンツを変更するために TM1 サーバー・インスタンスを停止する場合は、「停止」をクリックします。
    - 「停止の保留中」という状況メッセージが「停止済み」に変わらずに 5 分より長く続く場合は、「処理の終了」をクリックします。

注: 「処理の終了」をクリックすると、ログに記録されていないデータは失われます。

- TM1 サーバーの実行を再開するには、「開始」または「再始動」をクリックします。

## IBM Planning Analytics システムのコンテンツの更新

リモート・デスクトップを使用して、コンテンツ・ファイルをアップロードしたり、IBM Planning Analytics システム上のデフォルトの TM1 サーバーにデータをロードしたりします。

### 手順

1. リモート・デスクトップ接続を使用して IBM Planning Analytics システムに接続します。

詳細については、10 ページの『リモート・デスクトップ接続による IBM Planning Analytics への接続』を参照してください。

**ヒント:** クラシック・デスクトップ・ビューではなく、新しい Windows の「スタート」メニューが表示される場合、「デスクトップ」アイコンをクリックするか、Windows ロゴ・キーを押してクラシック・デスクトップ・ビューに切り替えてください。

2. 更新されたファイルを、リモート・デスクトップの一時フォルダーにアップロードします。
  - a. リモート・デスクトップ・セッションで Microsoft Windows エクスプローラーを開きます。

**ヒント:** Windows Server 2012 R2 において、Windows エクスプローラーのツールはファイル・エクスプローラーに名前変更されました。

- b. リモート・デスクトップで一時フォルダーを作成します。
- c. ファイルを、ローカル・デスクトップのエクスプローラーから、リモート・デスクトップで作成した一時フォルダーにコピーします。

**ヒント:** また、ファイル転送プロトコル (FTP) を使用してローカル・ファイルを IBM Planning Analytics システムにコピーすることもできます。

3. コンテンツを更新している TM1 サーバーを停止します。
  - IBM Planning Analytics Control ユーティリティーを開始します。
  - 影響を受ける TM1 サーバーごとに、「停止」をクリックします。

4. 「リモート・デスクトップ」ウィンドウで、アップロードされたファイルをサーバーのデータ・フォルダーにコピーします。

例えば、ファイルを一時フォルダーからフォルダー `¥¥data¥s¥prod¥tm1` にコピーします。

**重要:** TM1 サーバーのいずれかを示す既存のフォルダー (例えば `¥¥data¥s¥prod¥tm1`) を削除しないようにしてください。サービスを示すフォルダーには、ファイル `tm1s.cfg` が含まれています。

5. TM1 サーバーを開始します。
  - 「**TM1 Cloud Control**」ウィンドウにアクセスします。
  - 停止された TM1 サーバーごとに、「**開始**」をクリックします。

## オンプレミス・データ・ソースとのセキュア接続の管理

IBM Secure Gateway を使用することにより、Planning Analytics クラウド環境とオンプレミス・データ・ソースとの間のセキュア接続を作成したり管理したりすることができます。

一般に、Planning Analytics には、ERP システムからの集計トランザクション・データを表すソース・データが含まれています。それらのソース・システムは、多くの場合はリレーショナルであり、TurboIntegrator を使用することにより ODBC でアクセスします。Secure Gateway を使用すると、Planning Analytics のさまざまなコンポーネントが、シームレスかつセキュアにオンプレミスの ODBC データ・ソースと対話することができます。

TurboIntegrator を使用してオンプレミスの ODBC データ・ソースにアクセスする場合は、Secure Gateway を作成する必要があります。これは、データを TM1 にインポートしたり、データを ODBC ソースにエクスポートしたり、トランザクション・データをドリルスルーしたりする場合に便利です。

**注:** IBM Secure Gateway について詳しくは、Secure Gateway の概要を参照してください。

### 始める前に

Secure Gateway を作成するには、その前に サポートされる Secure Gateway クライアントをインストールする必要があります。

**注:** 以下の例の手順では、Docker Secure Gateway クライアントが使用されます。

### 手順

1. Secure Gateway クライアントがインストールされていることを確認します。
2. オンプレミス・データベースをセットアップします。
3. IBM Planning Analytics Control にログオンします。
4. 左側にあるパッドロック・アイコン  をクリックします。
5. IBM Secure Gateway を作成します。
  - a. 「**Create Secure Gateway**」カードをクリックします。

- b. Secure Gateway の名前を入力します。
- c. ゲートウェイ開始をだれに許可するかに関してセキュリティーを強化するには、「**Enforce Security Token**」チェック・ボックスを選択した状態にしておいてください。
- d. 「**Create**」をクリックします。作成の確認メッセージが表示され、「**Create Secure Gateway**」ウィンドウに指示が表示されます。
- e. 指示に従って、Docker Secure Gateway クライアントを使用して Secure Gateway に接続します。

Secure Gateway トンネルが接続されたことを確認するためのメッセージが表示されます。

「**Secure Gateways**」ウィンドウにおいて、Secure Gateway は正方形のカードで表されています。そのカードには、以下の情報が表示されます。

- Secure Gateway 名
- Secure Gateway のステータス

**ヒント:** ステータスとして「**CONNECTED**」が表示されている場合、カードは緑色です。ステータス「**DISCONNECTED**」が表示されている場合、カードは赤色です。

切断した Secure Gateway に再び接続するには、以下のようになります。

- a. 「**DISCONNECTED**」が表示されている赤色のカードをクリックします。
  - b. 「**Overview**」ウィンドウで、「**Show Details**」をクリックします。
  - c. 「**Docker Command**」ストリングまたは「**Docker Command with Secure Token**」ストリングのいずれかをコピーし、コマンド・ウィンドウでそれを実行します。
- Secure Gateway の接続先データ・ソースの数
  - 省略符号 (...) ボタン。これをクリックすると、Secure Gateway の詳細の編集または表示、Secure Gateway の有効/無効の切り替え、あるいは Secure Gateway の削除を実行できます。
6. オンプレミス・データ・ソースへの接続を追加します。
    - a. Secure Gateway を表すカードをクリックします。「**Overview**」ウィンドウが表示されます。

**ヒント:** ゲートウェイの情報を表示するには、「**Show Details**」をクリックします。過去 24 時間のインバウンド・データとアウトバウンド・データのそれぞれの量を表示するには、「**Show Usage**」をクリックします。

- b. 「**Data Sources**」ウィンドウで、「**Add Data Source**」ボタンをクリックします。
- c. データ・ソース名、ホスト名または IP アドレス、ポート、プロトコルを入力した後、「**Add**」をクリックします。データ・ソースが正常に追加されたことを示す確認メッセージが表示されます。
- d. ドライバー、データベース名、説明、トラステッド接続オプションを入力し、「**Create DSN**」をクリックします。DSN が正常に構成されたことを示す確認メッセージが表示されます。

- e. DSN 接続をテストするには、ユーザー名とパスワードを入力して、「**Test DSN**」をクリックします。テストが正常に終了した場合、データ・ソースの接続は完了し、Secure Gateway の使用を開始できます。

「**Data Sources**」ウィンドウで、データ・ソース接続は正方形のカードで表されます。そのカードには、以下の情報が表示されます。

- データ・ソース名
- データ・ソースのステータス
- 省略符号 (...) ボタン。これをクリックすると、データ・ソースの詳細の編集または表示、データ・ソースの有効/無効の切り替え、あるいはデータ・ソースの削除を実行できます。

**ヒント:** Secure Gateway が使用されている場合、Docker コンソールに接続トラフィック情報が表示されます。

---

## ネイティブ・セキュリティーを使用する Cognos TM1 ユーザー・アカウントの管理

IBM Planning Analytics システムのモデル作成者は、会社で必要とされる TM1 ユーザー・アカウントの作成および保守を担当します。

IBM Planning Analytics システムでネイティブ・セキュリティー (モード 1) を使用している場合、IBM Cognos TM1 Architect または IBM Cognos TM1 Performance Modeler を使用することによって、Cognos TM1 のユーザーおよびグループを作成したり管理したりできます。

### 手順

1. Cognos TM1 Architect でユーザー・アカウントを管理する手順は、以下のとおりです。
  - a. IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッションで、Cognos TM1 Architect を実行します。

詳しくは、20 ページの『IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Architect』を参照してください。
  - b. Cognos TM1 Server にログインします。
  - c. **tm1** ノードを右クリックして、「**セキュリティー**」>「**クライアント/グループ**」を選択します。
  - d. 「**クライアント/グループ**」ツールを使用して、ユーザーを管理します。

Cognos TM1 Architect を使用したユーザーおよびグループの管理について詳しくは、IBM Cognos TM1 操作ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_op.10.3.0.doc/c\\_preface\\_tm1\\_ops.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_op.10.3.0.doc/c_preface_tm1_ops.html)) を参照してください。

2. Cognos TM1 Performance Modeler でユーザー・アカウントを管理する手順は、次のとおりです。
  - a. IBM Planning Analytics システムのリモート・デスクトップ・セッションで、Cognos TM1 Performance Modeler を実行します。

詳しくは、22 ページの『IBM Planning Analytics と Cognos TM1 Performance Modeler』を参照してください。

- b. 「モデル設計」 ペインで、**data.tm1** を右クリックして「セキュリティの構成」>「ユーザーおよびグループの定義」>「ユーザーおよびグループ」を選択します。
- c. 「クライアント/グループ」 ツールを使用して、ユーザーを管理します。

Cognos TM1 Performance Modeler を使用したユーザーおよびグループの管理について詳しくは、IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.prfdm1\\_ug.10.3.0.doc/c\\_prfdm1\\_intro.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.prfdm1_ug.10.3.0.doc/c_prfdm1_intro.html)) を参照してください。

---

## IBM Planning Analytics 共有フォルダーでのファイルの管理

クラウドのデスクトップ・セッション内では、共有フォルダー内のファイルの管理を、リモート側から、または直接行うことができます。複数のクラウド環境がある場合には、各環境の共有フォルダー間でファイルを移動することもできます。

使用するローカル環境やクラウド環境に応じて、以下のいずれか 1 つまたは複数の方法で、共有フォルダー内のファイルを管理できます。

### ローカル・コンピューターから共有フォルダーにアクセスする

リモート・コンピューターから共有フォルダーに接続するには、File Transfer Protocol Secure (FTPS) をサポートするファイル転送プロトコル (FTP) アプリケーションを使用します。そうすることで、ローカル・コンピューターと、IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダー間で、安全にファイルを移動することができます。

IBM Planning Analytics ウェルカム・キットで提供された共有フォルダーのアドレスを指定して、FTP アプリケーションを使用します。例:

`customername.planning-analytics.ibmcloud.com`

詳細については、37 ページの『IBM Planning Analytics へのローカル・ファイルのコピー』を参照してください。

### リモート・デスクトップ・セッションで共有フォルダーを使用する

IBM Planning Analytics クラウド・システムのリモート・デスクトップ・セッション内から共有フォルダーにアクセスするには、以下のパスを使用します。

¥¥data¥s

例えば、リモート・デスクトップ・セッションで Microsoft Windows のエクスプローラーを開き、パスとして ¥¥data¥s を入力します。

**ヒント:** Windows Server 2012 R2 において、Windows エクスプローラーのツールはファイル・エクスプローラーに名前変更されました。

## 複数クラウド環境の共有フォルダー間でのファイルの移動

別の IBM Planning Analytics 環境の共有フォルダーに接続するには、提供されている x.x.x.x アドレスを使用します。

例えば、2 つのクラウド環境間でファイルを移動する場合の一般的なステップは、以下のようになります。

1. 最初のクラウド環境に対するリモート・デスクトップ接続を開始します。
2. 最初のクラウド環境のリモート・デスクトップ・セッションで Microsoft Windows のエクスプローラーを開き、¥¥data¥s と入力します。
3. 同じリモート・デスクトップ・セッションでエクスプローラーの 2 つ目のインスタンスを開き、もう 1 つのクラウド環境用の x.x.x.x アドレスを入力します。
4. エクスプローラーを使用して、これら 2 つのクラウド環境の共有フォルダー間でファイルをコピーおよび貼り付けします。

## IBM Planning Analytics へのローカル・ファイルのコピー

IBM Planning Analytics システムには、データ・ファイルの保管および転送用の専用共有フォルダーが含まれています。File Transfer Protocol Secure (FTPS) アプリケーションを使用することにより、ローカル・コンピューターと、IBM Planning Analytics システムの共有フォルダーとの間で、ファイルをコピーすることができます。

### 始める前に

IBM Planning Analytics システムのアカウント情報が必要です。

また、ローカル・システムから IBM Planning Analytics システムに安全にファイルをコピーするためには、File Transfer Protocol Secure (FTPS) をサポートする FTP アプリケーションも必要です。

**重要:** 転送時にデータが確実に暗号化されるようにするため、Planning Analytics システムの FTP 接続は、FTP with Secure Sockets Layer (FTPS) を使用するように構成されています。必ず FTPS をサポートする FTP アプリケーションを使用してください。

### 手順

1. ローカル・コンピューターで FTP アプリケーションを開き、File Transfer Protocol Secure (FTPS) を使用するためのオプションを有効にします。
2. 接続のための情報を入力します。
  - a. IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダーのアドレスを入力します。

例:

`customername.planning-analytics.ibmcloud.com`

- b. FileShare のユーザー名と、クラウド共有フォルダー用に割り当てられたパスワードを入力します。

3. FTP アプリケーションを使用して、ローカル・コンピューターと IBM Planning Analytics システムの間でファイルを選択して移動します。
4. FTP セッションからログアウトして、FTP アプリケーションを閉じます。

---

## IBM Planning Analytics によるデータのロードおよびマイグレーション

IBM Planning Analytics による、開発環境から実稼働環境へのデータのマイグレーションは、慎重な計画を必要とするプロセスで、段階的に実行する必要があります。データ・マイグレーションの実際の手順は、開発および実稼働環境の配置場所や、移動するデータのタイプなど、いくつかの要因に応じて異なります。

Cognos TM1 モデル作成者として実行可能なデータ・マイグレーション・タスクは、以下のとおりです。

- ローカル・コンピューターから、IBM Planning Analytics の非実稼働システムまたは実稼働システム内の共有フォルダーへのファイルのアップロード。
- IBM Planning Analytics の非実稼働システムまたは実稼働システムの共有フォルダー間でのファイルの移動。
- Cognos TM1 Web シート・ファイルの共有フォルダーへの手動によるコピー。

**重要:** Cognos TM1 サーバー・データベース・ファイルをデータ・ディレクトリーにコピーする場合は、Cognos TM1 サーバーを停止して再始動する必要があります。

以下のタスクは、継続的に実行できます。

- IBM Cognos TM1 Performance Modeler の転送ツールを使用した、開発環境と実稼働環境間でのメタデータ変更のエクスポートおよびインポート。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」のデータのインポートと転送 ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.prfdmld Ug.10.3.0.doc/c\\_prfdmld\\_importing\\_transferring\\_data.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.prfdmld Ug.10.3.0.doc/c_prfdmld_importing_transferring_data.html)) を参照してください。

- TurboIntegrator プロセスを使用した、実稼働環境への一括データのロード。

詳しくは、IBM Cognos TM1 TurboIntegrator ガイド ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_turb.10.3.0.doc/c\\_preface\\_n90007.html%23Preface\\_N90007](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_turb.10.3.0.doc/c_preface_n90007.html%23Preface_N90007)) を参照してください。

## 付録 A. IBM Planning Analytics に関するよくある質問

このセクションでは、IBM Planning Analytics に関するお客様からのよくある質問への回答を紹介しています。

### tm1s.cfg ファイルは変更してもよいですか？

はい、tm1s.cfg ファイルは変更できます。ただし、クラウド配置で提供されたバージョンを使用する必要があります。このクラウド・バージョンには、TM1 サーバーのポート番号など、Planning Analytics に固有の設定があります。ご使用の TM1 モデルをクラウドに移動する場合は、お客様の既存の tm1s.cfg ファイルを使用しないでください。一部の設定は、有効にするためにサーバーの再始動が必要です。TM1 サーバーを開始または停止するには、IBM Planning Analytics Control ユーティリティーを使用します。

### 10.2.2 以降に IBM Cognos TM1 構成パラメーターに変更はありますか？

はい。10.2.2 以降、パラメーターが TM1 サーバー構成ファイル (tm1s.cfg)、TM1 Web 構成ファイル (tm1web\_config.xml)、および TM1 クライアント構成ファイル (tm1p.ini) に追加されました。このセクションでは、10.2.2.3 バージョンの「*IBM Cognos TM1 インストールおよび設定ガイド*」の発行後に行われた変更内容を記載します。

次の表は、TM1 10.2.2.3 および TM1 10.2.2.4 で追加されたパラメーターのリストです。

表 1. 10.2.2.3 および 10.2.2.4 の tm1s.cfg の新規パラメーター

tm1s.cfg の新規パラメーター
MDXSelectCalculatedMemberInputs (10.2.2.4)
SpreadErrorInTIDiscardsAllChanges (10.2.2.3)

表 2. 10.2.2.3 および 10.2.2.4 の tm1web\_config.xml の新規パラメーター

tm1web_config.xml の新規パラメーター
ActionButtonFullRecalculationEnabled (10.2.2.4)
MixedCellPaste (10.2.2.3)

表 3. 10.2.2.3 および 10.2.2.4 の tm1p.ini の新規パラメーター

tm1p.ini の新規パラメーター
DisableAdminHostEntry (10.2.2.4)

次の表は、10.3 で変更された tm1s.cfg のパラメーターのリストです。

表 4. 10.3 で変更された tm1s.cfg のパラメーター

tm1s.cfg のパラメーター	10.3 での変更内容
AuditLogOn	動的に変更
ClientCAMURI	動的に変更
ClientPingCAMPassport	動的に変更
ClientPingCAMPassport	デフォルト値が 900 に変更
ExcelWebPublishEnabled	動的に変更
IntegratedSecurityMode	動的に変更
JobQueueMaxWaitTime	動的に変更
JobQueueThreadSleepTime	動的に変更
LogReleaseLineCount	動的に変更
MaskUserNameInServerTools	デフォルト値が TRUE に変更
MTQ	デフォルト値が ALL に変更
PerformanceMonitorOn	動的に変更
RawStoreDirectory	動的に変更
ServerCAMURI	動的に変更
ServerCAMURIRetryAttempts	動的に変更
ServerCAMURIRetryAttempts	デフォルト値が 3 に変更
ServerLogging	動的に変更
UseLocalCopiesforPublicDynamicSubsets	動的に変更

他のすべてのパラメーターについては、Tm1s.cfg ファイルのパラメーター、Cognos TM1 Web 設定パラメーター、およびtm1p.ini ファイルのパラメーターを参照してください。

### 初めにセットアップされるのはどの TM1 サーバーですか？

システムがプロビジョニングされると、初めに TM1 という名前の単一の空の TM1 サーバーがセットアップされます。

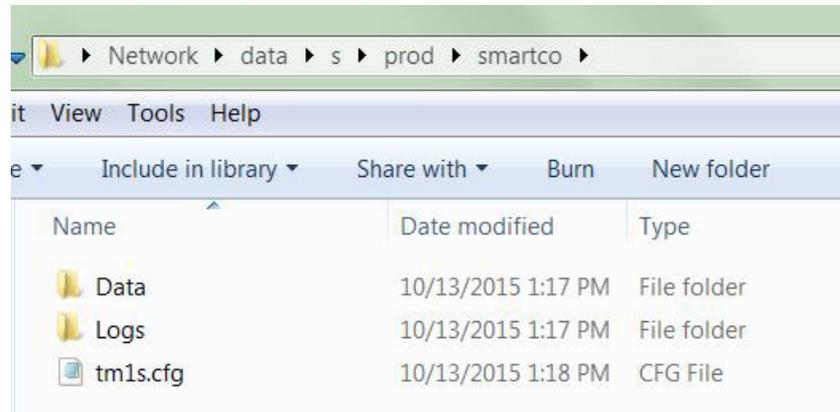
注： 現在、このデフォルトの TM1 サーバーは名前変更や削除ができません。

### 新しい TM1 サーバーはどのようにセットアップしたらよいですか？

追加の TM1 サーバーをセットアップするには、PMR を作成して Cloud Operations チームにリクエストを送信してください。セットアップが必要な TM1 サーバーの名前を指定してください。TM1 サーバーが Cloud Operations チームによってセットアップされると、新しいウェルカム・キットが E メールで送られてきます。ウェルカム・キットには、サーバー名と、TM1 のネイティブ・ログインおよびパスワードなど、新しいサーバーの詳細が記載されています。

これでお客様はサーバーをそのまま使用することも、ディレクトリー構造を変更して TM1 オブジェクトを特定の方法で編成することもできます。デフォルトでは、すべてのオブジェクトがベース・ディレクトリーにあります。

次の図に示すようなフォルダー構造を作成するのがベスト・プラクティスです。



この例では、TM1 アプリケーション/サーバーの名前は smartco です。デフォルトのサーバーの名前は TM1 であったことにご注意ください。そのため、この TM1 サーバーでは、ベース・ディレクトリーは `¥¥data¥s¥prod¥smartco` です。

**重要:** 以下の条件がすべて満たされている必要があります。

- tm1s.cfg ファイルはベース・ディレクトリー内に存在している必要があります。
- 作成するフォルダーはすべて、ベース・ディレクトリーの下に置く必要があります。
- ベース・ディレクトリーの場所や名前は変更できません。

通常は、お客様は次の名前の追加フォルダーを作成します。

- Excel - このフォルダーには、TM1 Web の Perspectives Report/Template 定義が含まれます。
- Files - このフォルダーは、.txt データ・ファイルを転送する際に使用します。

## 既存の TM1 サーバーのコンテンツや設定をクラウドに移行するにはどうしたらよいですか？

既存の TM1 サーバーのコンテンツや設定をクラウドに移行するには、次の手順を行います。

1. Cloud Operations チームに新しいサーバーをセットアップしてもらおうように PMR を作成します。40 ページの『新しい TM1 サーバーはどのようにセットアップしたらよいですか?』を参照してください。

**注:** IBM から提供される tm1s.cfg ファイルを使用します。既存の tm1s.cfg ファイルは使用しないでください。

2. デフォルトの TM1 オブジェクトを新規 TM1 サーバーから削除します。
3. 既存の TM1 データ・ディレクトリーから新規 TM1 サーバーのデータ・ディレクトリーに、TM1 オブジェクトをコピーします。
4. 既存の Cognos ユーザーを Cognos TM1 ADMIN グループに追加して、管理者として機能するようにします。詳しくは、Cognos TM1 管理者として機能するよう Cognos のユーザーを定義する ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_inst.10.2.2.doc/t\\_tm1op\\_defcamuser.html?lang=en](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.2.2/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_inst.10.2.2.doc/t_tm1op_defcamuser.html?lang=en)) を参照してください。

**ヒント:** すべての Planning Analytics ユーザー・アカウントは、デフォルトで Cognos セキュリティー・モード 5 で既に設定されています。

詳細については、38 ページの『IBM Planning Analytics によるデータのロードおよびマイグレーション』を参照してください。

## Architect、TurboIntegrator、または Performance Modeler のテキスト・ファイルにはどのようにアクセスしたらよいですか？

テキスト・ファイルへのアクセスを指定する場合、「データ・ソース」タブを選択し、「データ・ソース名」と「サーバー上のデータ・ソース名」の値が異なることを確認します。次の表を参照してください。

「データ・ソース」タブのテキスト・ボックスの名前	説明
データ・ソース名	これは、リモート・デスクトップを実行する際に Architect および Performance Modeler によって使用されるパスです。絶対パスを指定する必要があります。  例えば、 ¥¥data¥s¥prod¥tm1¥Integration¥OracleGLSubAccountDim.csv と入力します。
サーバー上のデータ・ソース名	これは、TM1 サーバーで TurboIntegrator プロセスによって使用されるパスです。S:¥... のような絶対パスを使用することも可能ですが、このパスは TM1 データ・ディレクトリーからの相対パスになります。 <b>重要:</b> 「サーバー上のデータ・ソース名」の値に ¥¥data¥s を入力すると、TI プロセスは失敗します。  例えば、..¥Files¥OracleGLSubAccountDim.csv と入力します。

**注:** 次の理由から、すべてのファイルを共有ドライブに置く必要があります。

- TM1 サーバーからは、リモート・デスクトップのファイル・システムが見えません。
- 共有ドライブのみがバックアップされます。そのため、リモート・デスクトップのディスク・ドライブにファイルを保管すると、データを失う恐れがあります。

## バックアップからデータを復元するにはどうしたらよいですか？

バックアップからデータを復元するには、Cloud Operations チームに連絡します。Cloud Operations チームは共有フォルダー内のデータのバックアップを毎日行っています。最新 7 日分の日次バックアップ、さらに 4 週分の週次バックアップを保持します。

**重要:** データが共有フォルダーに置かれていることを確認してください。共有フォルダー以外の場所に格納されたファイルはバックアップされません。

---

## 付録 B. IBM Planning Analytics の技術的考慮事項

IBM Planning Analytics を使用する作成する際には、注意する必要があるいくつかの技術的考慮事項があります。

---

### IBM Planning Analytics での複製と同期

現在のところ、IBM Planning Analytics では、Cognos TM1 の複製と同期 (rep と sync) 機能はサポートされておらず、テストもされていません。

IBM Planning Analytics のコンポーネントのユーザー・インターフェースで、複製および同期用のオプションが表示されていたとしても、この機能はクラウド環境ではサポートされません。

---

### IBM Planning Analytics システムのタイム・ゾーンとクロック設定値

IBM Planning Analytics のシステム・クロックは、協定世界時 (UTC) に設定されています。UTC は、インターネット、ネットワーク、オンライン・サービスおよびコンピュータ・サーバーに渡って使用される世界時標準です。

IBM Planning Analytics システムのタイム・ゾーンは変更できません。IBM Planning Analytics システムの Microsoft Windows デスクトップ環境用のユーザー・アカウントには、タイム・ゾーンを変更するための十分な権限がありません。

しかし、Windows システム・トレイ・タスクバーにあるクロックの上にマウスを移動すると表示される追加クロックを、IBM Planning Analytics システムに追加できます。また、Windows タスクバーからクロックを削除することもできます。

追加クロックの追加について詳しくは、インターネットで「Windows Server 2012 追加クロック」について検索してください。

---

### IBM Planning Analytics での TurboIntegrator ASCIIOutput 関数と TextOutput 関数

TurboIntegrator (TI) プロセスで相対パスを使用して、IBM Planning Analytics システムの共有フォルダーにデータをエクスポートします。

**ASCIIOutput** および **TextOutput** TI 関数は、IBM Planning Analytics システムの `¥¥data¥s` の出力パスでは機能しません。代わりに、`./` を使用して、Cognos TM1 データ・ディレクトリーおよび IBM Planning Analytics システム上の共有フォルダーの相対パスを指定します。

例えば、以下の TI コード・サンプルは、IBM Planning Analytics システムでは機能しません。

```
ASCIIOutput('\\data\s\prod\test.txt',test output);
```

以下のコード・サンプルは、IBM Planning Analytics システムで機能します。これらのサンプルは、データ・ディレクトリー内の temp という名前のユーザー作成フォルダーに出力を書き込みます。

```
ASCIIOutput('./temp/test1.txt','test output 1');
```

```
TextOutput('./temp/test2.txt','test output 2');
```

これらの TI 関数について詳しくは、「*IBM Cognos TM1 リファレンス・ガイド*」の ASCII および Text TurboIntegrator 関数 ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT\\_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1\\_ref.10.3.0.doc/c\\_asciiandtextturbointegratorfunctions\\_n706d4.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SS9RXT_10.3.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tm1_ref.10.3.0.doc/c_asciiandtextturbointegratorfunctions_n706d4.html) %23ASCIIandTextTurboIntegratorFunctions\_N706D4) を参照してください。

---

## IBM Planning Analytics および Cognos TM1 Architect の表示の問題

一部のシナリオでは、Cognos TM1 Architect または Server Explorer を IBM Planning Analytics システムのデスクトップ・セッションで実行すると、オブジェクト・ツリー・ペイン内の展開アイコンおよび縮小アイコン (+ 記号と - 記号) が非表示になります。

この表示の問題が発生した場合、ツリーでオブジェクト・ノードを展開して TM1 データ・オブジェクトにアクセスすることができなくなります。

この回避策として、Cognos TM1 Architect または Server Explorer を閉じてから再度開き、正しく表示されるようにします。

---

## IBM Planning Analytics および Cognos TM1 Architect でのメッセージ・ログの表示

IBM Planning Analytics で Cognos TM1 Architect のメッセージ・ログを表示するには、回避策が必要です。

「サーバー」>「メッセージ・ログの表示」をクリックすると、「ログ・ファイルを開く際にエラーが発生しました」というエラーが表示されます。

回避策として、`¥¥data¥s¥prod¥tm1` 共有フォルダーの場所にある `tm1server.log` ファイルを、Windows のメモ帳などのテキスト・エディターを使用して開いて表示します。

---

## IBM Planning Analytics での TM1 REST API へのアクセス

ご使用の IBM Planning Analytics 環境の IBM Cognos TM1 REST API にアクセスできます。

IBM Cognos TM1 REST API について詳しくは、IBM Cognos TM1 SDK community (<https://www.ibm.com/developerworks/community/groups/community/TM1SDK>) を参照してください。

IBM Cognos TM1 REST API は、ご使用の IBM Planning Analytics 環境で有効になっています。末尾が文字列 /api/v1/\$metadata である URL を入力してアクセスしてください。

## 例

例えば、サーバー環境 `myserver.planning-analytics.ibmcloud.com` のロケーション `tm1/api/Planning Sample` で TM1 モデルが構成されているとします。その場合、TM1 REST API にアクセスするには、以下のテキストを入力します。

```
https://myserver.planning-analytics.ibmcloud.com/tm1/api/Planning  
Sample/api/v1/$metadata
```



## 付録 C. ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体に障害を持つ方々に IT 製品をご使用いただけるように支援する機能です。

### キーボード・ショートカット

アプリケーション固有のキーに加えて、Microsoft Windows の標準ナビゲーション・キーが使用されます。

キーボード・ショートカットを使用して、アプリケーション内をナビゲートし、タスクを実行することができます。スクリーン・リーダーを使用している場合はウィンドウを最大化して、キーボード・ショートカット表を完全に拡張し、アクセス可能にすることができます。オペレーティング・システムのハイコントラストをオンにすると、ダイアグラムの線およびアプリケーションのグラフが見やすくなります。

注: 次のショートカット・キーは、標準の US キーボードに基づいています。

表 5. キーボード・ショートカット

操作	キーボード・ショートカット
「アプリケーション」ビューを開く	Alt+A
「モデル」ビューを開く	Alt+M
エディターを閉じる	Ctrl+W
次のエディターに移動する	Ctrl+F6
前のエディターに移動する	Ctrl+Shift+F6
次のビューに移動する	Ctrl+F7
前のビューに移動する	Ctrl+Shift+F7
保存	Ctrl+S
すべて保存	Ctrl+Shift+S
キー・アシスタンスを表示する	Ctrl+Shift+L
エディターに切り替える	Ctrl+Shift+E
コンテキスト・メニューを開く	Shift+F10
メニューをナビゲートする	上矢印と下矢印
メニューまたはコンテキスト・メニューでコマンドをアクティブにする	Enter
有効な次のメニュー・アイテムまたはコンテキスト・メニュー・アイテムに移動して選択する	下矢印
メニューまたはコンテキスト・メニューのサブメニューで有効な最初のアイテムを選択する	右矢印

表 5. キーボード・ショートカット (続き)

操作	キーボード・ショートカット
有効な直前のメニュー・アイテムまたはコンテキスト・メニュー・アイテムに移動して選択する	上矢印
開いているメニューを閉じる	Esc
チェック・ボックスをオンまたはオフにする	スペース・バー
ダイアログ・ボックスまたはウィザードの次のアイテムに移動する	Tab
ダイアログ・ボックスまたはウィザードの直前のアイテムに移動する	Shift+Tab
ドロップダウン・リストの次の選択項目に移動する	下矢印
ドロップダウン・リストの直前の選択項目に移動する	上矢印
次のオプション・ボタンに移動して選択する	Tab+スペース・バー
直前のオプション・ボタンに移動して選択する	Shift+Tab+スペース・バー
ドロップダウン・リストまたはメニューを開いて表示する	Alt+下矢印
開いているドロップダウン・リストまたはメニューを閉じる	Alt+上矢印、または Esc
ダイアログ・ボックスまたはウィザードを閉じる	Esc
選択されているドロップダウン・アイテムを呼び出す	Enter
行った変更を適用し、ダイアログ・ボックスまたはウィザードを閉じる	Tab キーを使用して「OK」に移動し、Enter を押す
行った変更内容を適用も保存もせずにダイアログ・ボックスまたはウィザードを閉じる	Esc
タブ間をナビゲートする	右矢印と左矢印、または Tab か Shift+Tab
現在のタブを右に移動する	Shift+Page Up
現在のタブを左に移動する	Shift+Page Down
ツールバー内でアイコンからアイコンにナビゲートする	左矢印および右矢印
キューブ・ビューアーでディメンションのメンバーを表示する	Alt+下矢印
キューブ・ビューアーで複数の行または列を選択する	Ctrl+下矢印

表 5. キーボード・ショートカット (続き)

操作	キーボード・ショートカット
行内にある既存のディメンションを、選択したディメンションに置き換える	Ctrl+R
列内にある既存のディメンションを、選択したディメンションに置き換える	Ctrl+C
コンテキストにある既存のディメンションを、選択したディメンションに置き換える	Ctrl+T
選択したディメンション内でメニューを自動的に展開する	選択したディメンションのコンテキスト・メニューで、「レベルへの展開」コマンドまで下矢印で移動し、表示するレベルを選択する
ディメンション内で親を展開または省略する	Enter
モデルをサーバー上のデータで最新表示する	F5
アプリケーションを終了する	Alt+F4

## IBM およびユーザー補助

IBM のユーザー補助機能への取り組みについて詳しくは、IBM アクセシビリティ・センター (<http://www.ibm.com/jp/accessibility>) を参照してください。



---

## 特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この記述は、IBM から他の言語で提供されている場合があります。ただし、これ入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group  
Attention: Licensing  
3755 Riverside Dr.  
Ottawa, ON  
K1V 1B7  
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

この「ソフトウェア・オフファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。



## 索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

アカウント情報 7  
アクセシビリティ 47, 51  
    キーボード・ショートカット 47

### [カ行]

開発環境 1  
概要 2  
キーボード・ショートカット  
    アクセシビリティ 47  
技術的考慮事項 43  
共有フォルダー 6, 36  
    ローカルとクラウド間でのファイルの移動 37  
クライアント・コンポーネント 4  
クラウド・システム 2  
言語設定 15  
コンポーネントの実行 17

### [サ行]

サービスおよび共有フォルダーへのアクセスの制御 13  
実稼働環境 1  
情報の検索 v  
相対パス 43

### [タ行]

データ・マイグレーション 38  
ドキュメント 16

### [ハ行]

はじめに v  
パスワード 7  
非実稼働環境 1  
ファイル管理 36  
ファイル転送 37  
ホストされるアプリケーション 4  
ホワイトリスティング 13

### [ヤ行]

ユーザー名 7

### [ラ行]

リモート・デスクトップ接続 10  
ローカル・アプリケーション 4

## A

ASCIIOutput 関数 43

## C

Cognos Analysis for Microsoft Excel 24  
Cognos Command Center 27  
Cognos Insight 23  
Cognos TM1 Applications 19, 29  
Cognos TM1 Architect 20  
Cognos TM1 Mobile Contributor 26  
Cognos TM1 on Cloud  
    環境 1  
    共有フォルダー 6  
    言語設定 15  
    ご利用の手引き 1  
    システムの概要 2  
    リモート・デスクトップ接続 10  
    Cognos Command Center と 27  
    Cognos Insight と 23  
    Cognos TM1 Applications と 19  
    Cognos TM1 Architect と 20  
    Cognos TM1 Mobile Contributor と 26  
    Cognos TM1 Operations Console と 19  
    Cognos TM1 Performance Modeler と 22  
    Cognos TM1 Perspectives と 21  
    Cognos TM1 Prism と 17  
    Cognos TM1 Web と 18  
    Windows Server 2012 と 11  
Cognos TM1 Operations Console 19  
Cognos TM1 Performance Modeler 22  
Cognos TM1 Perspectives 21  
Cognos TM1 Server  
    管理 31  
    停止および開始 31  
Cognos TM1 Web 17, 18  
Cognos TM1 コンポーネント 4  
Cognos TM1 ユーザー・アカウント 35

## F

FTPS 37

## I

- IBM Planning Analytics
  - アカウント情報 7
  - アプリケーションおよびコンポーネント 4
  - Cognos Analysis for Microsoft Excel と 24
- IBM Planning Analytics Control 29
- IBM Planning Analytics ウェルカム・キット 7
- IP ホワイトリストの割り当て 13

## T

- TextOutput 関数 43

## W

- Windows Server 2012
  - キーボード・ショートカット 11